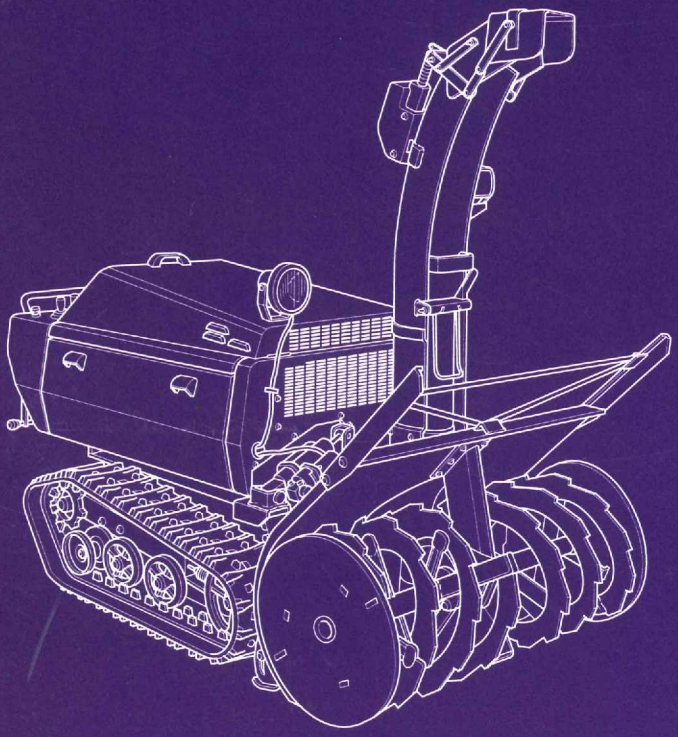
ホンダ スノー ファイター

HS2011Z・HS2411Z

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

ホンダ除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

－除雪作業をするときは、必ず携帯してください。

－除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。

－紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはホンダ汎用営業所にご注文ください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷をする可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
本書はHS2411Zを中心に編集しています。
・保証書は良くお読みいただき裏面の商品受領書サイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ・・・・・・・・・・・・・ 4
　安全ラベル ・・・・・・・・・・・・・

運転操作のしかた……44
1. ソリの調節……45
2. オーガ　ハウジング高さの調節……46
3. 始動……47
4. 運転操作……47
5. 除雪部の傾き調節……50
6. 除雪のしかた……51
除雪機の止めかた……54

定期手入れを行いましょう……57
日常点検……57
定期点検……58
やさしい点検・整備……59
携帯工具と付属部品……59
エンジン　オイルの交換……60
エア　クリーナの清掃……62
点火プラグの清掃、調整……65
フューエル　ストレーナ（１次）の点検……67
フューエル　ストレーナ（２次）の点検……68
クローラ張り調整……69
除雪部の点検……70
バッテリ……71
ヒューズについて……73
各部の作動点検……74

運搬するときは……75

長期間使用しないときの手入れ……77

故障のときは……80

主要諸元……81

配線図……巻末

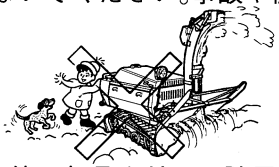
安全にお使いいただくために

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- 過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」(31～39頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。
- 適切な指示なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。



- カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前に予め除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。

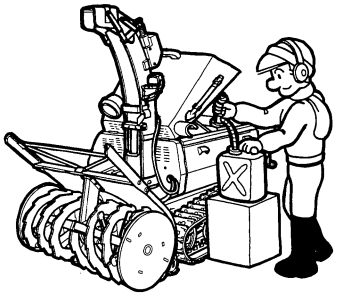


- 作業をする時は、手袋、帽子、防寒服、防寒ぐつ等防寒用の身支度をしてください。また防寒ぐつはすべり止めのあるものを着用してください。

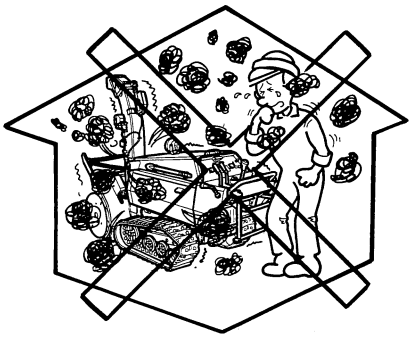
これだけはぜひ守りましょう

警告

- 砂利道などの除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので除雪しないでください。
- 定められた点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。



- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。



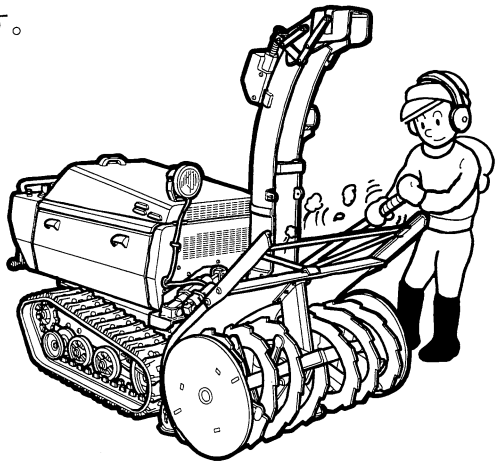
- 屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。

警告

●作業中の注意

- 除雪部は回転しており誤って触れると大ケガをするおそれがあるので、手足などを絶対に近づけないようにしてください。また、作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
- 除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足などを絶対に近づけないでください。
- 投雪方向を人や建物等に向けて使用しないでください。投雪方向の調節は状況に応じて適切に行ってください。
- 万一、雪の中に石などの異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投げ出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
- 除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。

  エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。



警告

- 急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあるので、必ず変速レバーを低速側または高速側のニュートラル　ポイント（16頁参照）の位置にしてから、走行クラッチを「入」にし、徐々に変速レバーを操作してください。
- 雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、決して走らないでください。また方向転回時は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。特に後進時には、足元および後方に十分注意してください。
- 共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。
- 除雪中障害物に当ったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ　キャップを取外し（65頁参照）、回転部が停止していることを確認してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- 除雪の速度に注意し過負荷にならないようにしてください。エンジンに悪影響をあたえます。
- 駐車をするときは平坦な場所を選び、駐車ブレーキをかけて駐車してください。
- 傾斜地では、変速レバーを“N”（中立）の位置にしないでください。また高速、低速の切換えを行わないでください。本機が空走して、思わぬ事故を招くことがあります。

警告

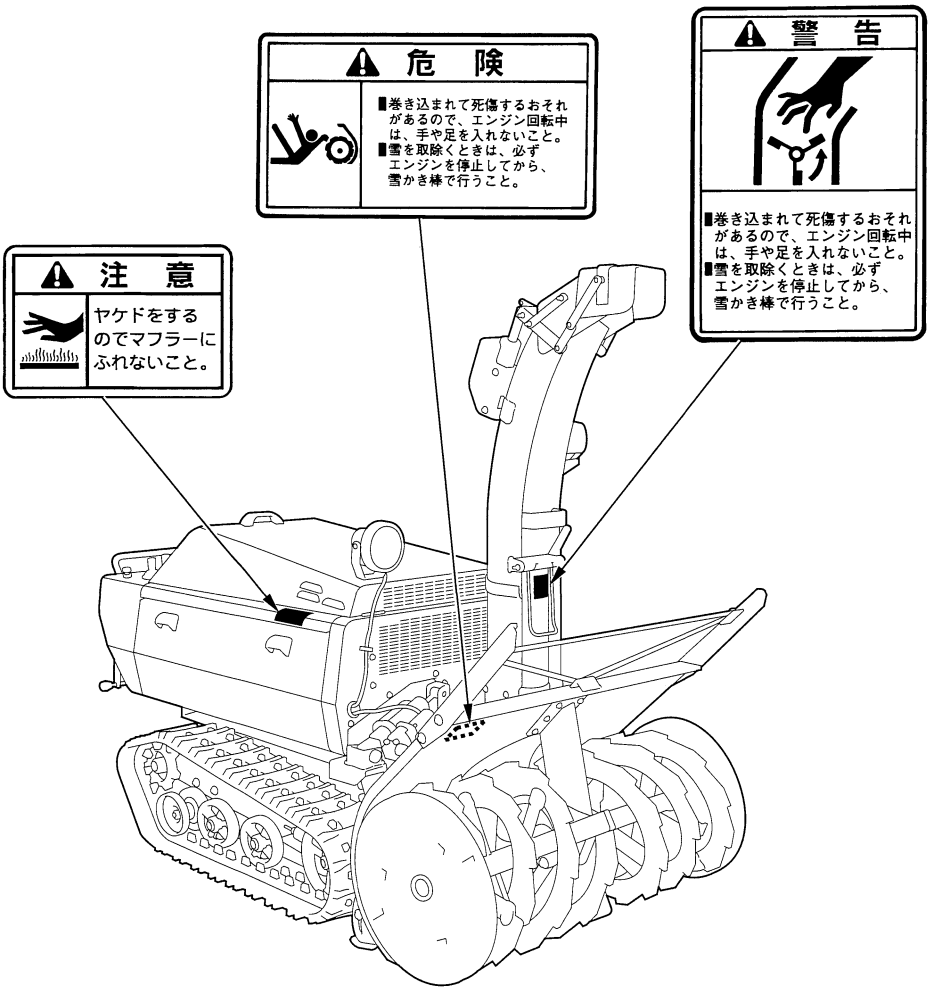
●作業が終ったら

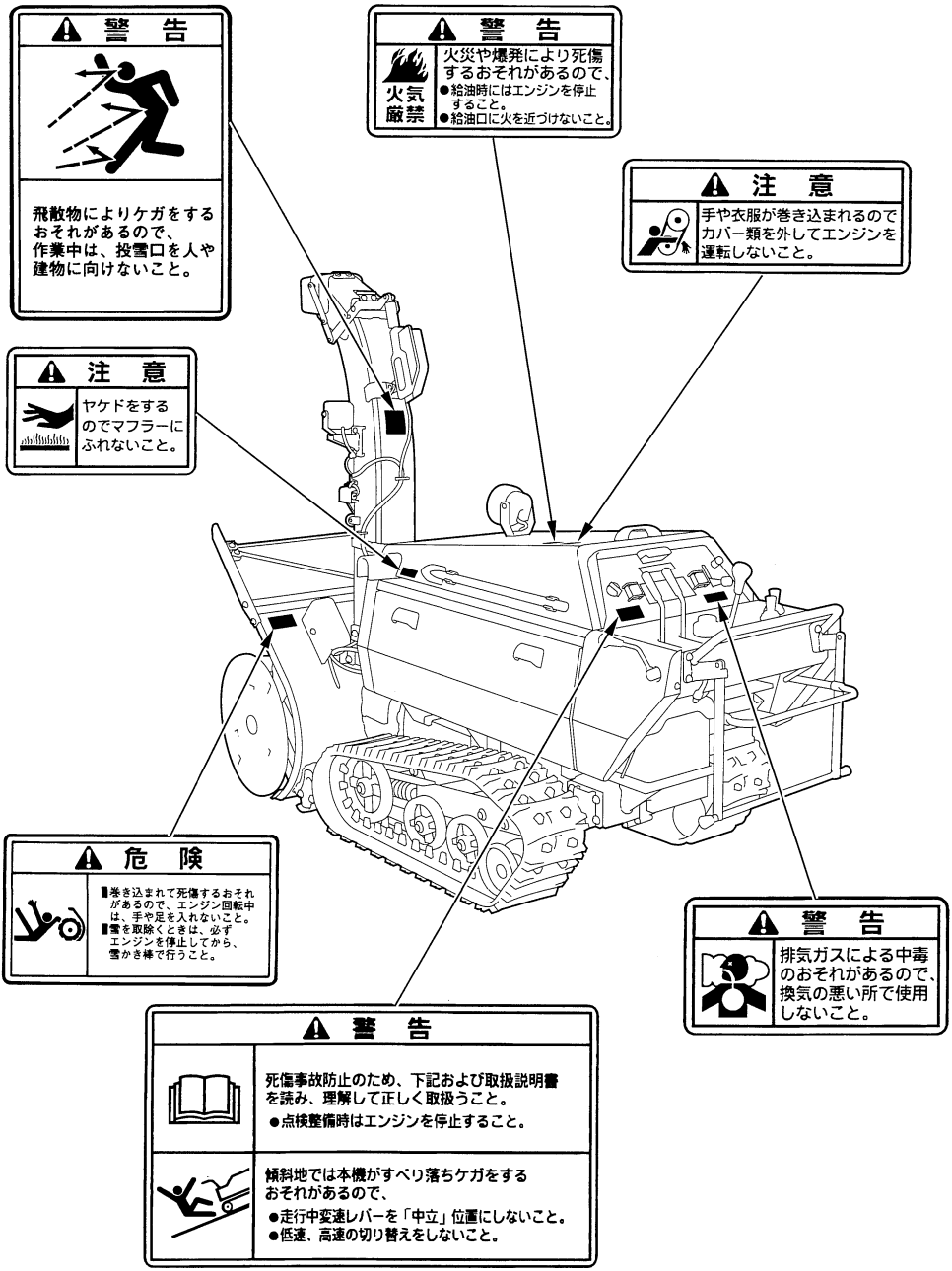
- 本機から離れるときには、オーガ　ハウジングを路面に接地させ、必ずエンジンを止め、エンジン　スイッチ　キーを外してください。いたずらなどで本機が動きだし、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 本機を室内に格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディ　カバーなどをかけて格納してください。
- 長期保管前には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンクなどに保管してください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを“停止”位置にし、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。
- 各部の点検でカバー類を開ける際は、必ずエンジンを停止し、火傷のおそれがありますので各部が冷えるまで十分時間をおいてから開けてください。
- ボンネットを開けたときは、必ずステー（保持棒）を正規の状態にセットしてください。
- 点検時、マフラに直接触れないように、ご注意ください。
- ボンネット内に、工具、燃えやすい物等を置き忘れないように注意してください。工具、取扱説明書などは、必ず所定の工具箱に収納してください。
- 作業時以外は、必ず除雪部を完全に路面まで下げておいてください。
- 作業後は、除雪部の雪を取除いて格納してください。残った雪が凍結し、次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。

安全ラベル

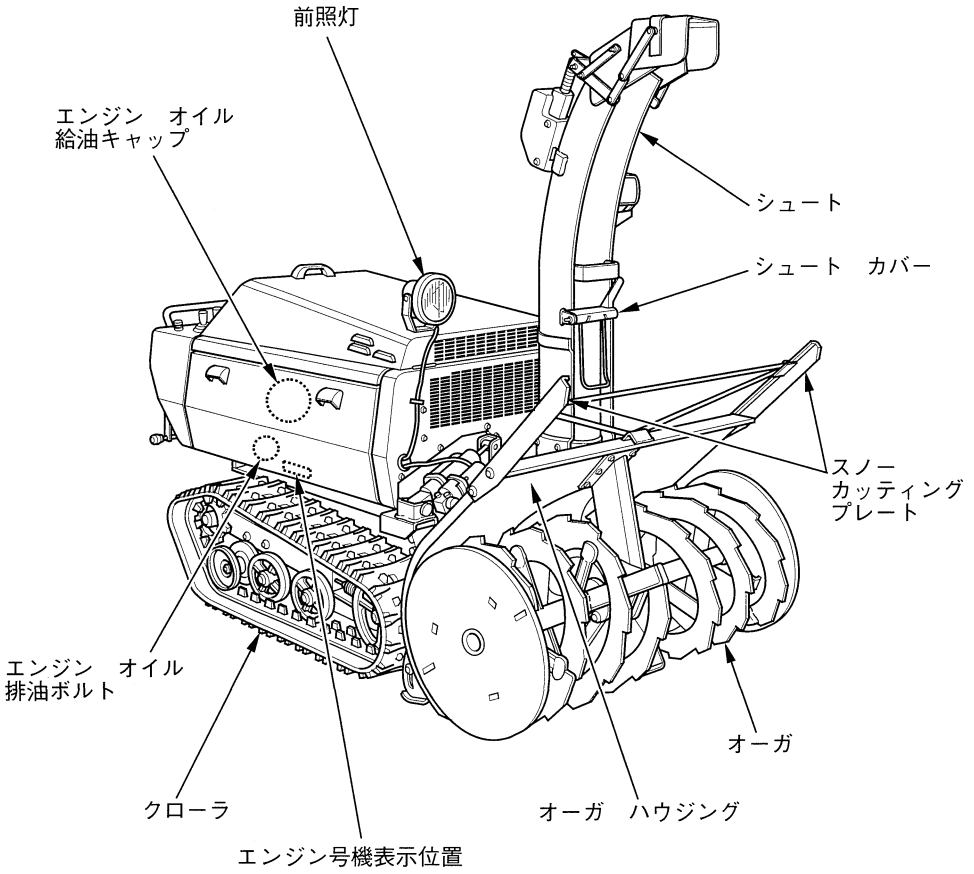
除雪機を安全に使用していただくため、本機は安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

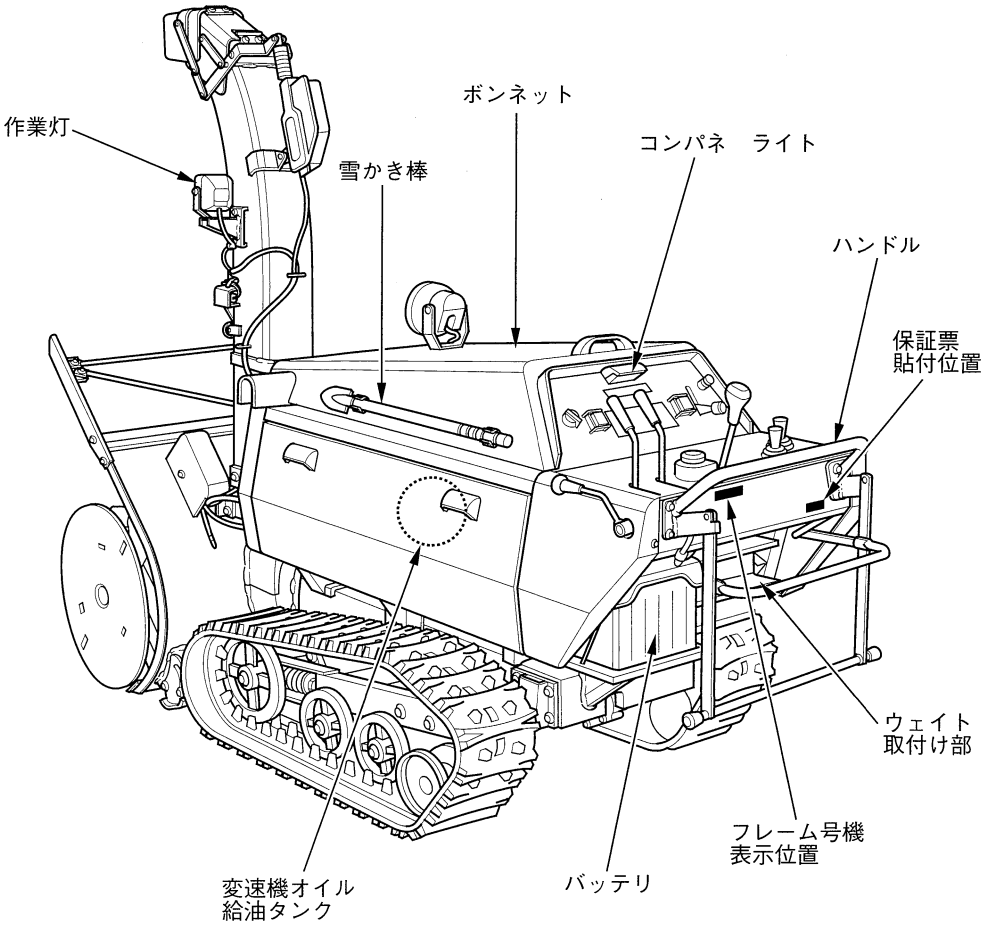
本機に貼ってあるラベルが、破れ、紛失、汚れなどで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

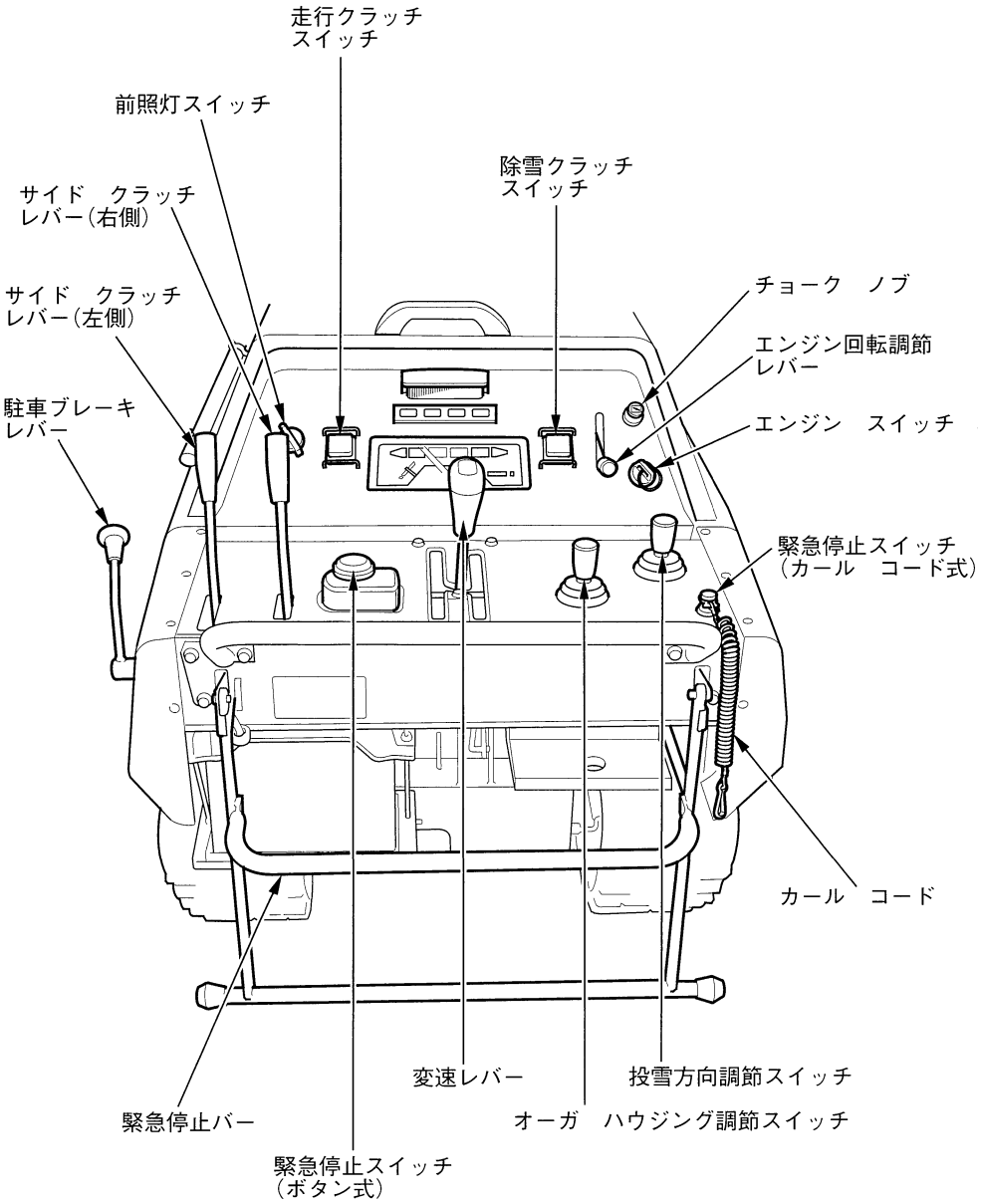



⚠ 警 告
飛散物によりケガをするおそれがあるので、作業中は、投雪口を人や建物に向けないこと。
⚠ 警 告
火気厳禁
火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
●給油時にはエンジンを停止すること。
●給油口に火を近づけないこと。
⚠ 注 意
手や衣服が巻き込まれるのでカバー類を外してエンジンを運転しないこと。
⚠ 注 意
ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。
⚠ 危 険
■巻き込まれて死傷するおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。
■雪を取除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。
⚠ 警 告
排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。
⚠ 警 告
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
●点検整備時はエンジンを停止すること。
傾斜地では本機がすべり落ちケガをするおそれがあるので、
●走行中変速レバーを「中立」位置にしないこと。
●低速、高速の切り替えをしないこと。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう




作業灯
雪かき棒
ボンネット
コンパネ　ライト
ハンドル
保証票
貼付位置
ウェイト
取付け部
フレーム号機
表示位置
バッテリ
変速機オイル
給油タンク


走行クラッチ
スイッチ
前照灯スイッチ
除雪クラッチ
スイッチ
サイド　クラッチ
レバー(右側)
サイド　クラッチ
レバー(左側)
チョーク　ノブ
エンジン回転調節
レバー
エンジン　スイッチ
駐車ブレーキ
レバー
緊急停止スイッチ
(カール　コード式)
カール　コード
変速レバー
投雪方向調節スイッチ
緊急停止バー
オーガ　ハウジング調節スイッチ
緊急停止スイッチ
(ボタン式)

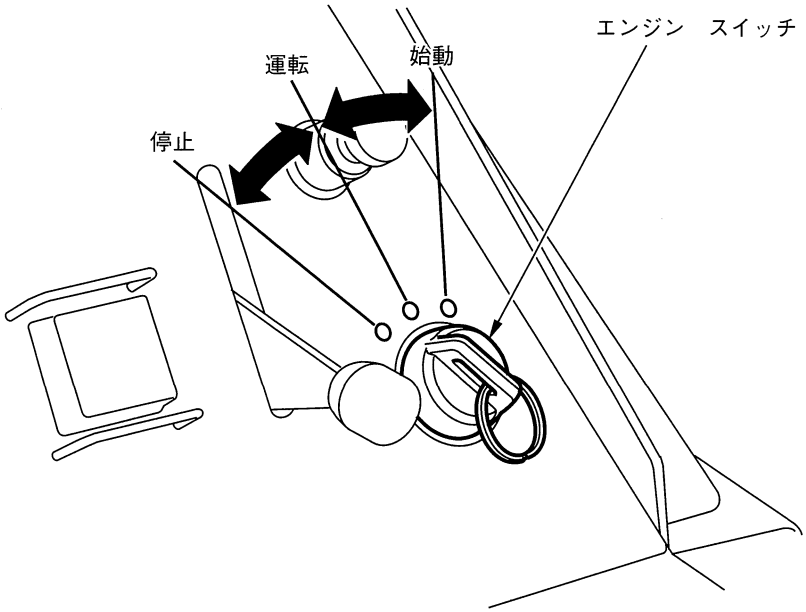
エンジン　スイッチ

エンジンを始動、運転、停止するときに操作します。

停止・・・・エンジンを停止する位置です。(キーの抜き取り、差し込みができます。)

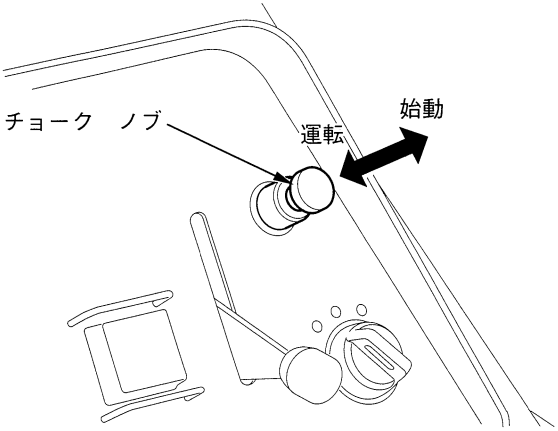
運転・・・・エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

始動・・・・エンジンを始動させるときこの位置まで回します。スタータ　モータが回ります。エンジンが始動したらキーから手を離してください。自動的に**"運転"**の位置に戻ります。



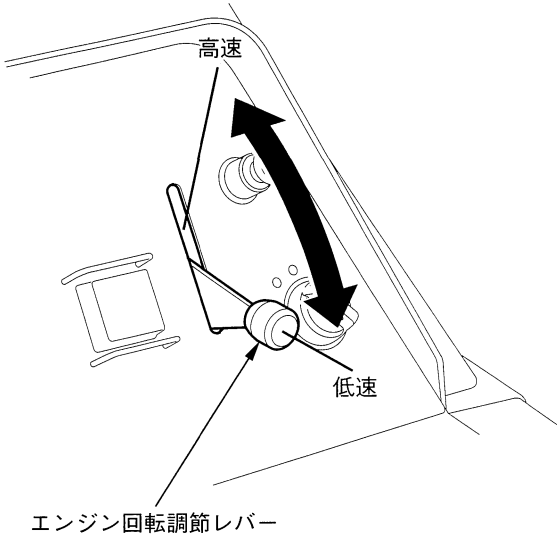
チョーク　ノブ

エンジンが冷えているときに操作します。



エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節するときに操作します。通常は**“高速”**の位置でご使用ください。



変速レバー

本機を前進、後進するときに操作します。

低速側(作業用)、高速側(移動用)に分かれそれぞれ、前進、後進の速度を無段階に調節することができます。

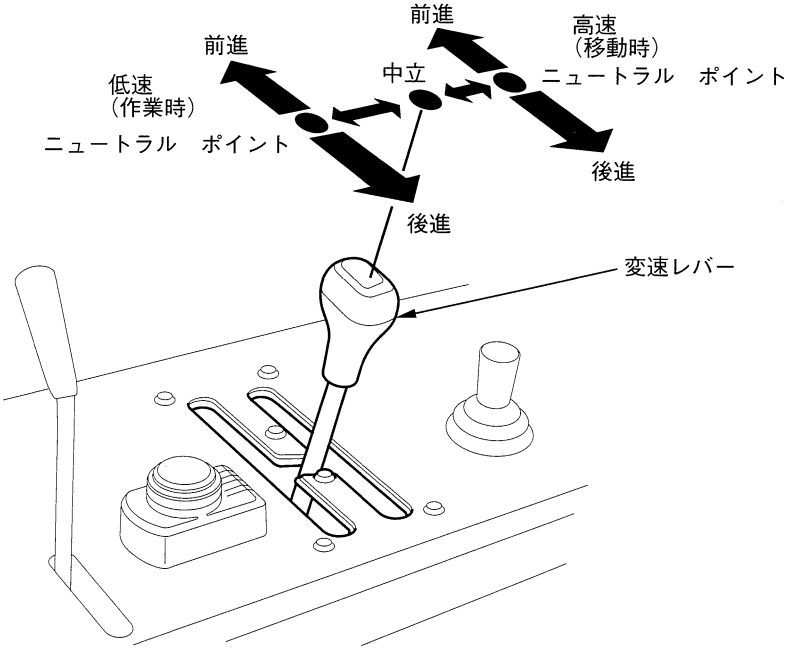
前進するときは‥‥ニュートラル　ポイントの位置から前方へ徐々に動かします。

後進するときは‥‥ニュートラル　ポイントの位置から後方へ徐々に動かします。

本機を使用しないときは低速側または高速側のニュートラル　ポイントの位置にしてください。

⚠警告

斜面で変速レバーを“N”(中立)の位置にすると本機が空走することがあります。



走行クラッチ　スイッチ

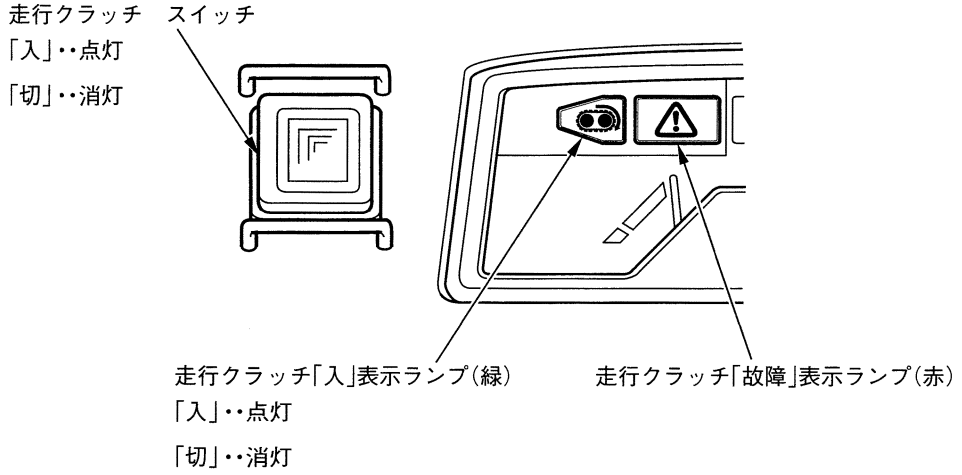
走行クラッチ　スイッチを押すことによって走行クラッチの「入」、「切」の切換えを行います。スイッチは押し続ける必要はありません。

スイッチを押すと・・・・・・・
(スイッチが点灯:緑)

- 数秒後、走行クラッチ「入」表示ランプ(緑)が点灯し、クラッチがつながります。
  変速レバーを操作することで本機が走行します。
- 走行クラッチ「入」表示ランプ(緑)が点灯しない、または走行クラッチ「故障」表示ランプ(赤)が点灯する場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。

スイッチを再度押すと・・・
(スイッチが消灯)

走行クラッチ「入」表示ランプ(緑)が消灯し、本機は走行できません(停止します)。



- 走行クラッチの「入」表示ランプ、「故障」表示ランプはエンジン　スイッチを**"運転"**の位置にすると数秒間点灯し、消えるのが正常です。点灯しない場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。
- 走行クラッチ　スイッチを押してもスイッチ(緑)が点灯しない場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。

除雪クラッチ　スイッチ

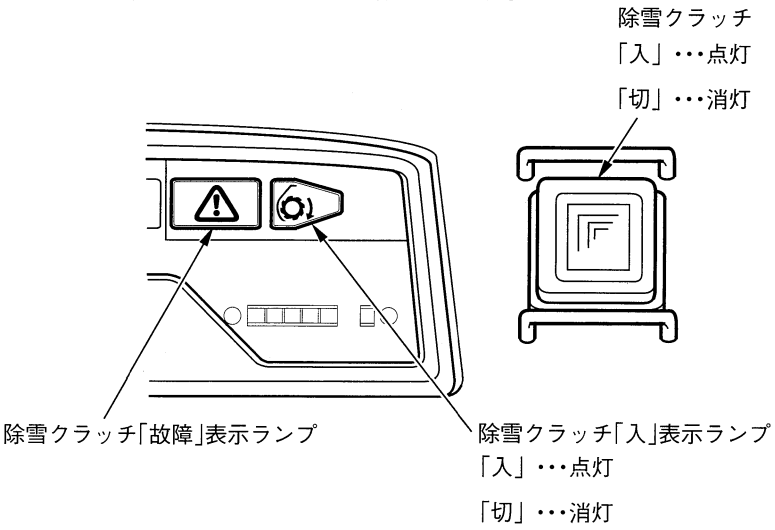
除雪クラッチ　スイッチを押すことによってオーガとブロアの回転、停止の切換えを行います。スイッチは押し続ける必要はありません。

スイッチを押すと……
(スイッチが点灯:緑)

- クラッチが作動しオーガとブロアが回転し始めます。除雪クラッチ「入」表示ランプ(緑)が点灯したら、除雪作業が開始できます。
- 除雪クラッチ「入」表示ランプ(緑)が点灯しない、または除雪クラッチ「故障」表示ランプ(赤)が点灯する場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。

スイッチを再度押すと…
(スイッチが消灯)

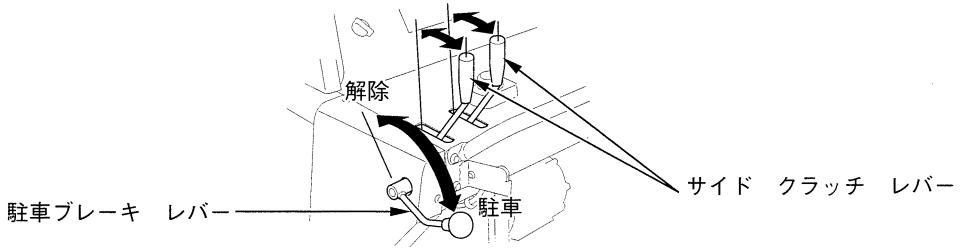
除雪クラッチ「入」表示ランプ(緑)が消灯し、オーガとブロアが停止します。



- 除雪クラッチの「入」表示ランプ、「故障」表示ランプはエンジン　スイッチを**"運転"**の位置にすると数秒間点灯し、消えるのが正常です。点灯しない場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。
- 除雪クラッチ　スイッチを押してもスイッチ(緑)が点灯しない場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。

駐車ブレーキ　レバー

本機を駐車するときに操作します。駐車側に駐車ブレーキ　レバーを引くとサイド　クラッチ　レバーがロックされブレーキが働きます。駐車時には必ず駐車ブレーキ　レバーを**“駐車”**にしてください。



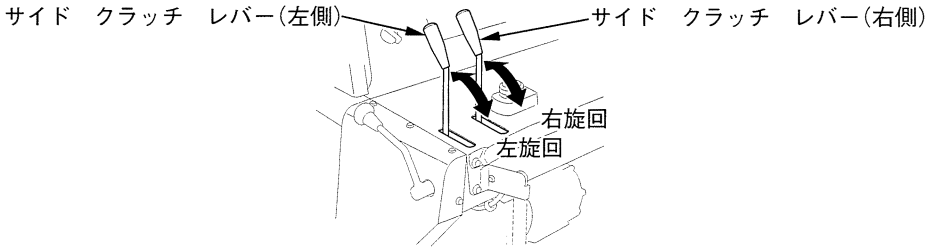
取扱いのポイント

走行中に駐車ブレーキ　レバーを操作しないでください。変速機に悪影響をあたえます。

サイド　クラッチ　レバー

本機の方向を変えるときに操作します。

旋回しようとする側のサイド　クラッチ　レバーを手前に引くと、引いた方向に本機は旋回します。



⚠警告

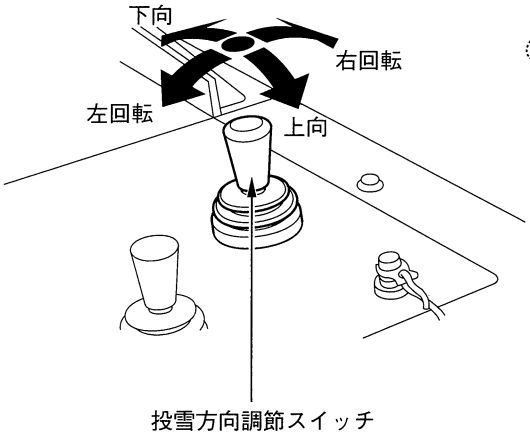
- 旋回するときは、十分スピードを落としてください。雪の上での作業は滑りやすく転倒するおそれがあります。
- サイド　クラッチ　レバーを操作するときは、周囲の安全を十分確認してください。また、旋回時は本機の位置が急激に変化します。ハンドルや操作パネルに体が触れないよう注意してください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

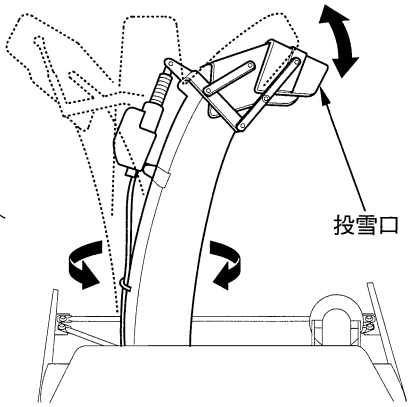
投雪方向調節スイッチ

投雪距離と方向を変えるときに操作します。

エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にし、スイッチを操作することによって投雪口を上下、左右に無段階に調節することができます。

投雪方向調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリが消耗します。





取扱いのポイント

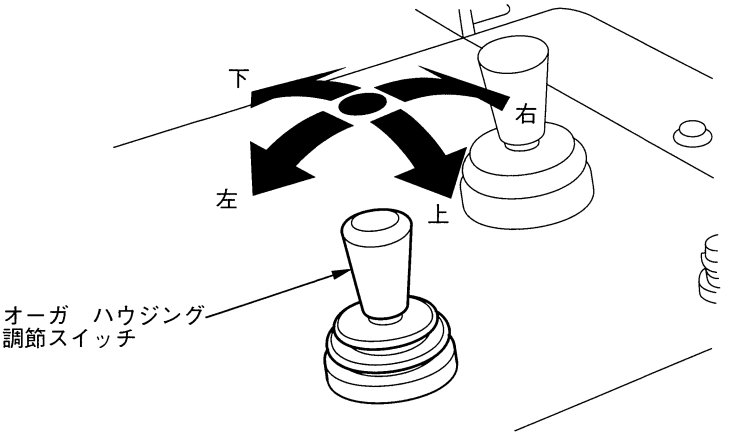
調節スイッチを操作したまま保持しないでください。モータが加熱して保護装置が働き、投雪口が動かなくなります。このときは操作をやめ、しばらく待ってから再度操作してください。

オーガ　ハウジング調節スイッチ

除雪部の高さと左右の傾きを調節するときに操作します。

除雪部を上下、左右無段階に調節することができます。(46、50頁参照)

オーガ　ハウジング調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリが消耗します。



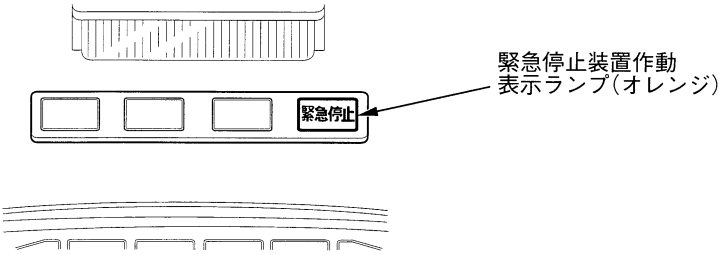
取扱いのポイント

調節スイッチを操作したまま保持しないでください。油圧シリンダが加熱して保護装置が働き、除雪部の調節ができなくなります。このときは操作をやめ、しばらく待ってから再度操作してください。

緊急停止装置

緊急に本機の走行や作業を停止させたい場合に使用します。緊急停止装置には次の３つがあります。緊急停止装置を操作すると走行、除雪クラッチが「切」になりエンジンが停止し本機も停止します。

緊急停止装置が働くと、緊急停止装置作動表示ランプ(オレンジ)が点灯します。緊急停止装置作動表示ランプは、エンジン　スイッチを**“停止”**の位置にすると消灯します。



⚠注意

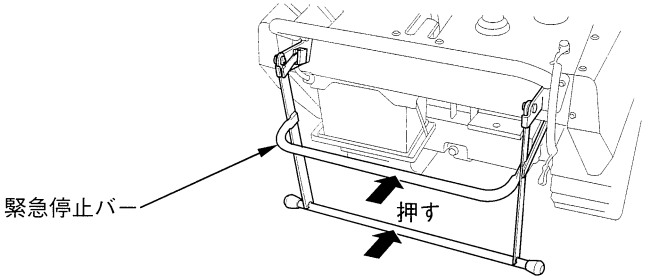
緊急停止装置は、緊急の場合以外は使用しないでください。

・緊急停止バー

後進時に滑って転んだときなどに使用します。バーを押すとエンジンが停止し本機も停止します。バーを押したままではエンジンは始動しません。バーを放せば、緊急停止装置作動表示ランプが点灯していても、エンジンは始動できます。

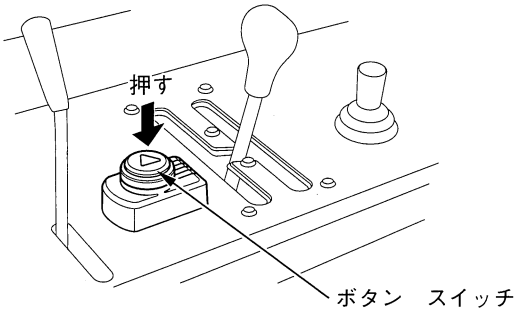
取扱いのポイント

緊急停止バーはバンパではありませんので絶対に乗ったり、ロープをかけたりしないでください。故障する原因になります。



・緊急停止スイッチ(ボタン式)

ボタン　スイッチを押すとエンジンが停止し本機も停止します。ボタン　スイッチを放せば、緊急停止装置作動表示ランプが点灯していても、エンジンは始動できます。

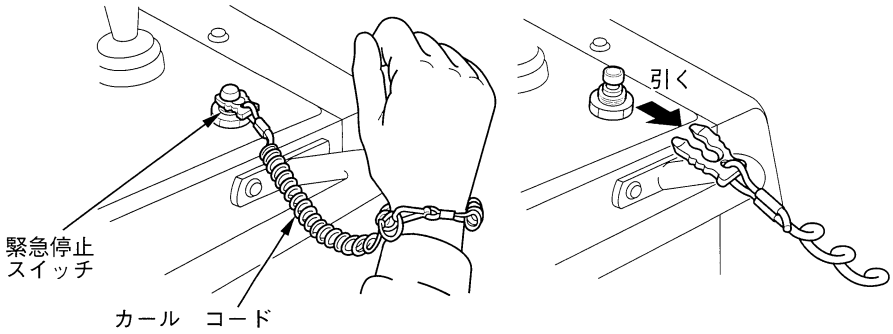


・緊急停止スイッチ(カール　コード式)

カール　コードを引き抜くと停止します。カール　コードのクリップを体につけておけば、転倒して本機が離れた場合などにカール　コードが外れ、エンジンが停止し本機も停止します。カール　コードが外れたままではエンジンは始動しません。再度運転する場合はカール　コードを横から差し込みます。カール　コードを差し込めば、緊急停止装置作動表示ランプが点灯していても、エンジンは始動できます。

⚠警告

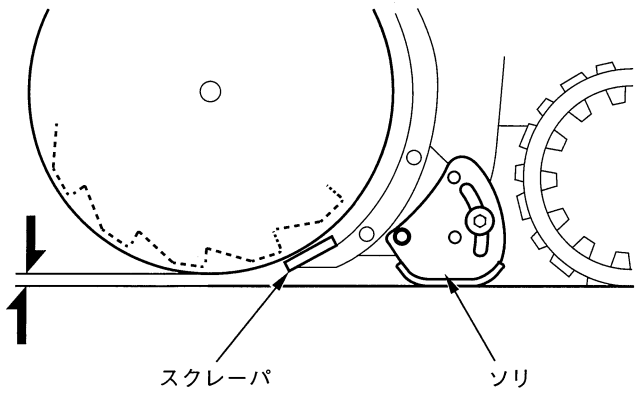
本機の運転中は、カール　コードを運転者の身体の一部に付けておいてください。非常時(ころんだときなど)にエンジンが停止せず、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



ソリ、スクレーパ

ソリは除雪する路面の状態に合わせて調節してください。ソリは除雪部と路面との高さを決めます。調節のしかたは、45 頁を参照してください。

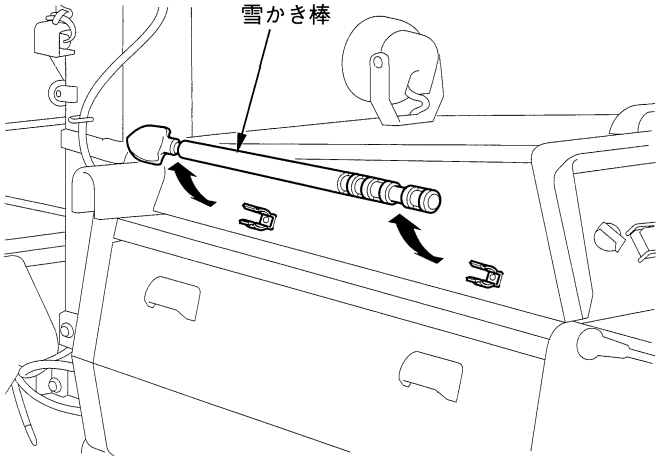
スクレーパは除雪面をならします。



雪かき棒

雪が除雪部や投雪口に詰まったときに使用します。

雪かき棒を使用した後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の取付け位置にセットしてください。

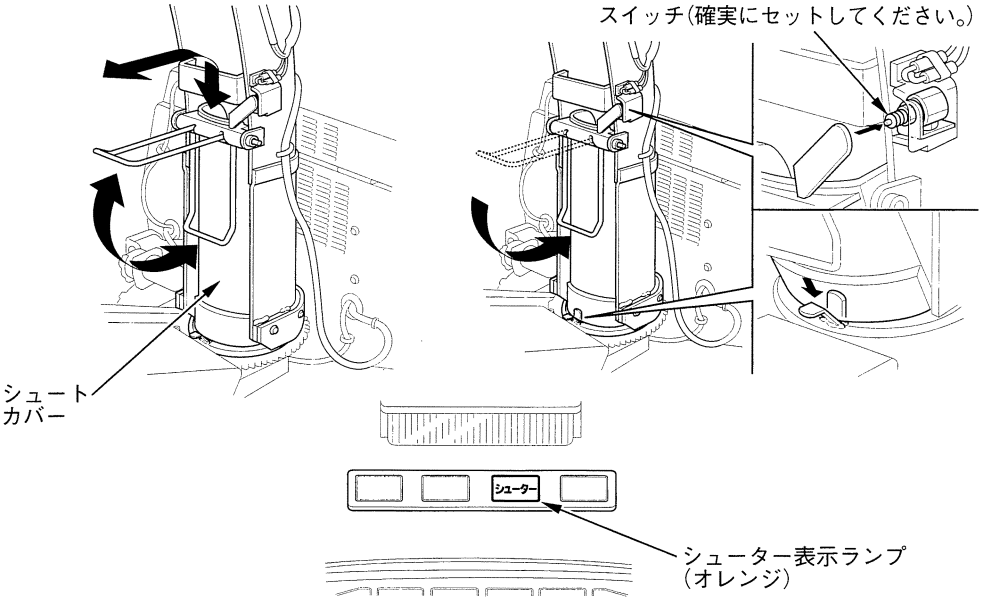


シュート　カバー

投雪口に雪が詰まったときは、シュート　カバーを外して雪かき棒で詰まった雪を除去してください。(53頁参照)

除去後、シュート　カバーを確実にセットしてください。

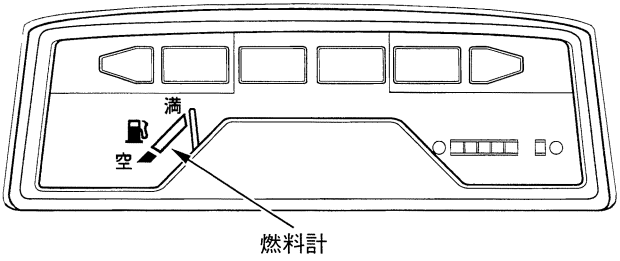
セットされていないと、シューター表示ランプ(オレンジ)が点灯し、エンジンが始動しない機構になっています。



燃料計

燃料の残量を示します。

燃料計の針が**"空"**に近づいたら早目に燃料を補給してください。



油圧警告灯

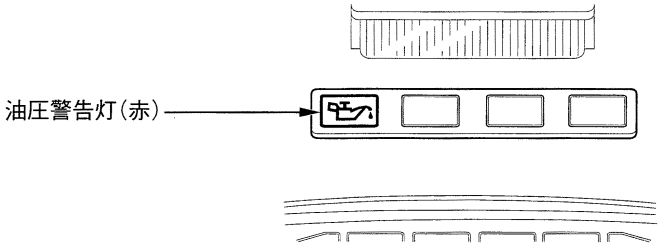
エンジンの潤滑系統に異常が発生したときに点灯します。

エンジン　スイッチを**“運転”**にすると点灯し、エンジン始動後に消灯すれば正常です。

・万一、運転中に点灯した場合は、安全な場所に移動してエンジンを停止し、エンジン　オイル量を点検してください。

取扱いのポイント

エンジン オイル量が正常で、運転中に警告灯が点灯する場合は、除雪作業を中止してください。お買いあげ販売店で点検を受けてください。

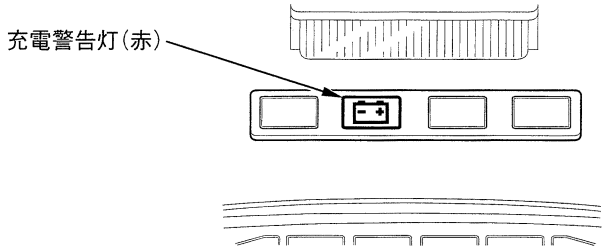


充電警告灯

エンジンの充電系統に異常が発生したときに点灯します。

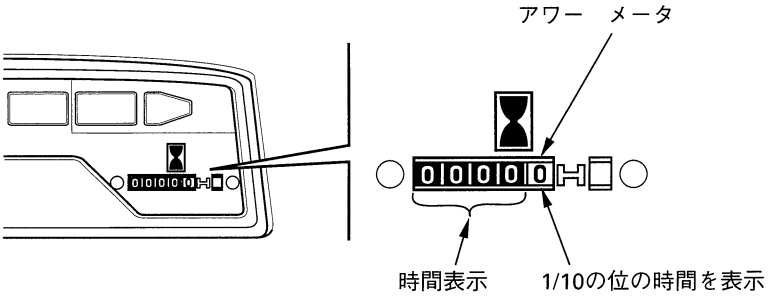
エンジン　スイッチを**“運転”**にすると点灯し、エンジン始動後に消灯すれば正常です。

・万一、運転中に点灯した場合は、安全な場所に移動して、エンジンを停止し、お買いあげ販売店で点検を受けてください。



アワー　メータ（積算時間計）（HS2411Z）

除雪機の使用時間を表示します。5桁めは1/10の位の時間を表示します。
定期点検を受ける時期の確認ができます。（58頁参照）

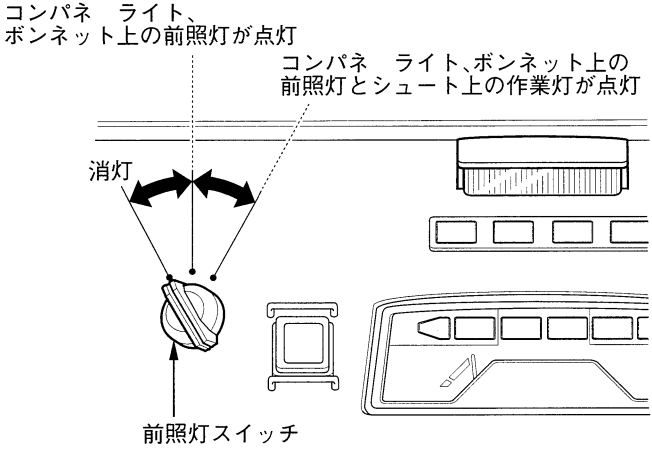


前照灯スイッチ

前照灯（作業灯）を点灯、消灯するときに操作します。
前照灯スイッチを回わすと、ボンネット上の前照灯及びコンパネ　ライトが点灯し、更に回わすとシュート上の作業灯、コンパネ　ライトおよびボンネット上の前照灯が点灯します。

取扱いのポイント

前照灯は、エンジン運転中に使用してください。エンジン停止中に使用するとバッテリが消耗します。

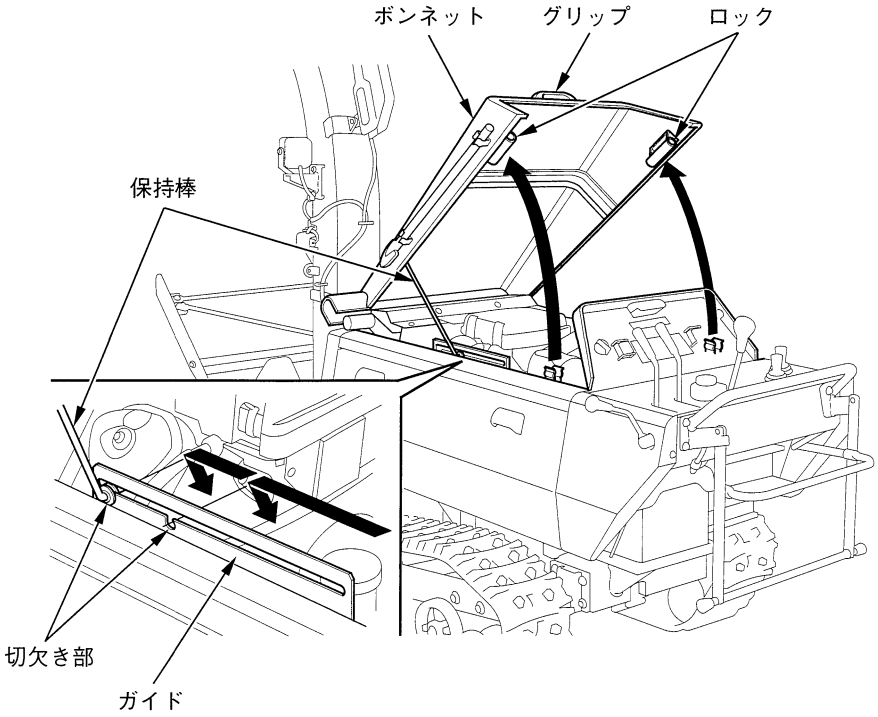


ボンネットの開けかた、閉めかた

- 開けるときは、グリップを持ち、保持棒がガイドの切欠き部に固定されるまで、ボンネットを持ち上げます。
- 閉めるときは、ボンネットを少し持ち上げながら、保持棒を切欠き部より外して、ボンネットを閉じます。ボンネットは静かに閉じ、ロックを確実にセットしてください。

⚠注意

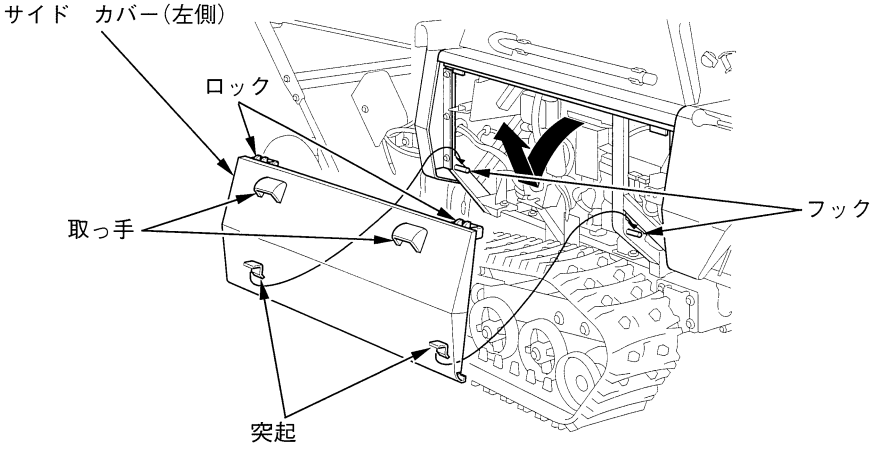
シュートを前方方向に向けてボンネットを開けてください。
シュートを左右に大きく振った状態でボンネットを開けるとボンネットの前端とシュート又はハーネスが干渉する場合があります。

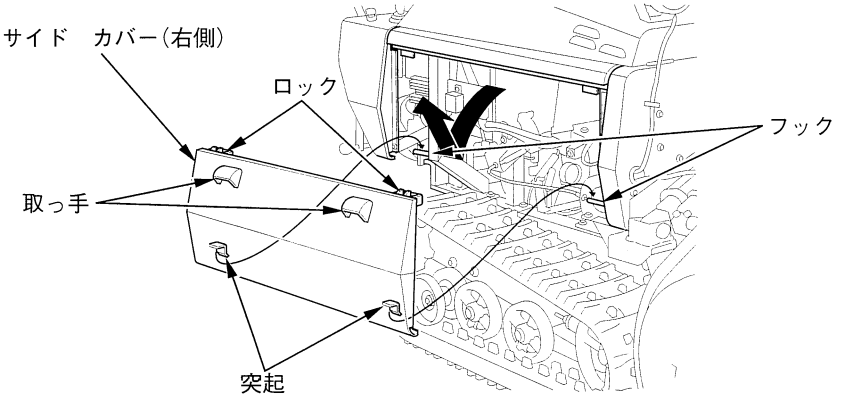


サイド　カバーの取外し、取付け

- 取外しは、取っ手を持ち手前に引いて、サイド　カバーの上部を開けます。次に、サイド　カバーを上方に持ち上げて取外します。
- 取付けは、サイド　カバーの突起部をフレームのフックに合せます。次に、サイド　カバーの上部を本機側に押し、ロックをかけて取付けます。

サイド　カバーのロックが倒れているとロックがフレームにかかりません。この場合ロックを起こしてから、再度サイド　カバーを閉じてください。



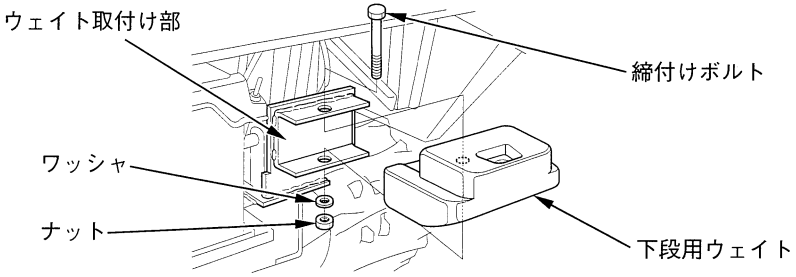


ウェイト取付け部

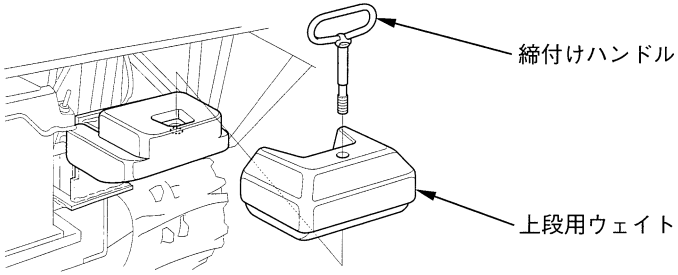
段切除雪における作業性を良くするために、ウェイト取付け部に指定ウェイト(別売部品)を取付けることができます。(段切除雪は52頁参照)

- ウェイト取付け部にウェイト以外の部品を付けないでください。また、けん引作業などに使用しないでください。
- ウェイトは必ず指定のものを使用し、下段用と上段用の2個を一対で使用してください。指定ウェイトはお買上げ販売店にご注文ください。
- ウェイトはひとつの重さが約15 kgあります。ご自身で取付けができない場合は、お買上げ販売店にお申しつけください。

1. ウェイト取付け部に下段用ウェイトをのせ、締付けボルトを差込みます。
2. 締付けボルトに、ワッシャとナットを組付け、確実に締付けます。



3. 上段用ウェイトを下段用ウェイトにのせ、締付けハンドルで確実に固定します。



- ウェイトの取外しは、取付けの逆手順で行ってください。

エンジンをかける前に点検しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップをはずして行ってください。

ガソリンの点検

点検

エンジン　スイッチ　キーを"運転"にしてから燃料計を確認してください。
燃料計の針が"空"に近づいたら、早めに燃料を補給してください。燃料を使いきってしまった場合は、始動に多少時間がかかる場合があります。

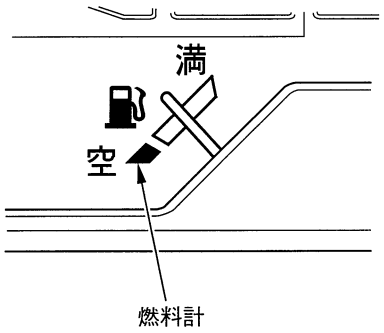
取扱いのポイント

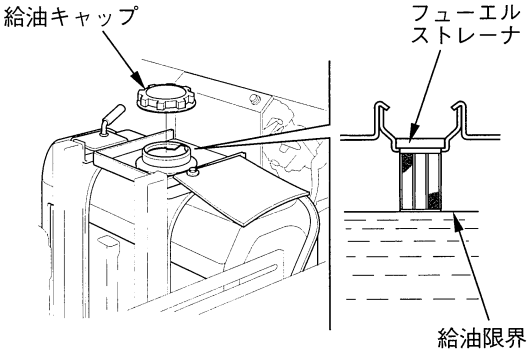
- 携帯缶やポリタンクから給油する場合はフューエル　ストレーナを外さずに給油してください。
- ガソリンスタンドで給油する場合はフューエル　ストレーナを外して給油してください。
- 給油限界以上に給油しないでください。

補給

使用燃料：自動車用無鉛ガソリン
タンク容量：25ℓ

1. ボンネットを開けてください。(28頁参照)
2. 給油キャップを外し、図の位置(給油限界)を超えないように補給します。
3. 補給後、給油キャップを完全に締付け、ボンネットを閉めてください。





⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。
- 燃料は注入口の口元まで入れず給油限界を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

取扱いのポイント

除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入るとエンジン不調の原因になります。

長期保管後の点検(除雪シーズンに初めて使用する前の点検):
長期保管後、初めて燃料を補給したときは、キャブレータのドレン　チューブから燃料が漏れていないことを確認してください。キャブレータ　ドレン　スクリュの締付けが不完全な場合、燃料が漏れることがあります。

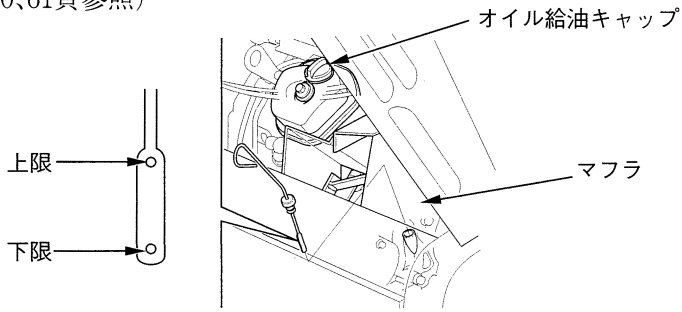
エンジン　オイルの点検

点検

⚠警告

エンジン　オイルの点検はエンジンやマフラが冷えているときに行ってください。エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラの温度が高くなっており、触れると火傷をするおそれがあります。万一、エンジンが暖まっている状態で点検する場合は、丈夫な手袋をしてマフラに触れないように注意して行ってください。

1. エンジンを水平にしてオイル　レベル　ゲージの回りを清掃します。
2. オイル　レベル　ゲージを外し、ゲージ部のオイルを拭取ります。
3. オイル　レベルを図の向きで押込み、オイル　レベル　ゲージの上限までオイルがあるか点検します。不足している場合は新しいオイルをオイル　レベル　ゲージの上限まで補給します。汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は60、61頁参照)



取扱いのポイント

エンジン　オイルの点検はエンジン始動前に行ってください。エンジン停止直後は正確な量を測定できません。エンジン停止後に点検する場合は、しばらく待ってから測定してください。

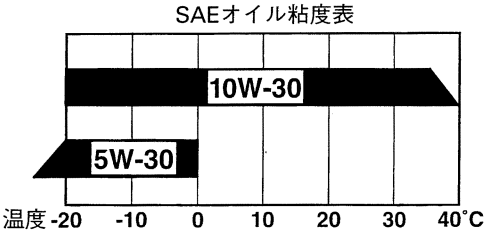
補給

オイル給油キャップを外し、新しいオイルをオイル　レベル　ゲージの上限まで補給します。補給後オイル　レベル　ゲージ、給油キャップを確実に取付けます。

推奨オイル：

（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）

ホンダ純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30エンジンオイル。



汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は60、61頁参照）

取扱いのポイント

- 気温0 °C以上の場合は、ホンダ純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

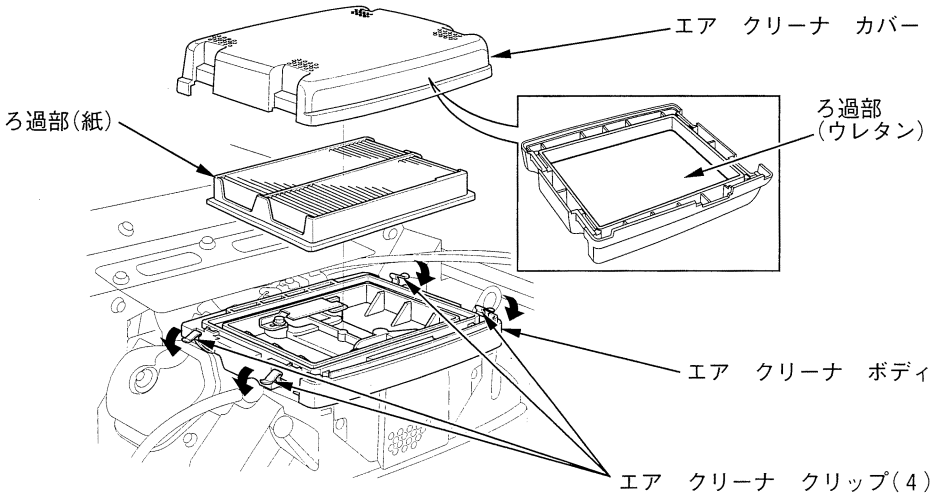
エア　クリーナの点検

1. エア　クリーナ　クリップ4つを外し、エア　クリーナ　カバーを取外します。

取扱いのポイント

エア　クリーナ　ボディ内側にホコリやゴミを落とさないように注意してください。キャブレータの詰まりなどの原因になります。

2. 紙製ろ過部、およびエア　クリーナ　カバー裏側のウレタン製ろ過部の汚れを点検します。
   - 汚れのひどい場合は、ろ過部(ウレタン、紙)の清掃をします。(清掃方法は62頁参照)
   - ろ過部(ウレタン、紙)が汚れているとエンジン性能が低下します。



3. ろ過部(ウレタン、紙)、エア　クリーナ　カバーを確実に取付けます。

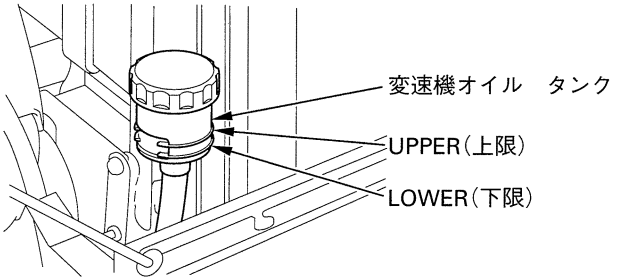
取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、カバーやろ過部(ウレタン、紙)が取付けられていない場合は、エンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン、紙)は確実に取付けてください。

変速機オイルの点検

点検

変速機オイルの点検は除雪機が冷えているときに行ってください。
ボンネットをあげて変速機オイル　タンクのUPPER(上限)とLOWER(下限)の間にオイルがあるか確認します。



補給

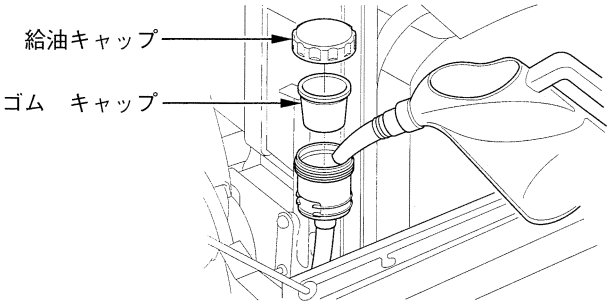
補給はボンネットをあけて行います。

1. 給油キャップと内部のゴム　キャップを外して、新しい変速機オイルをUPPER(上限)まで補給します。
2. 補給後、確実にゴム　キャップと給油キャップを取付けます。

指定オイル：(4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル)
ホンダ純正汎用寒冷地オイル(SAE 5W-30)またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30エンジン　オイル。

取扱いのポイント

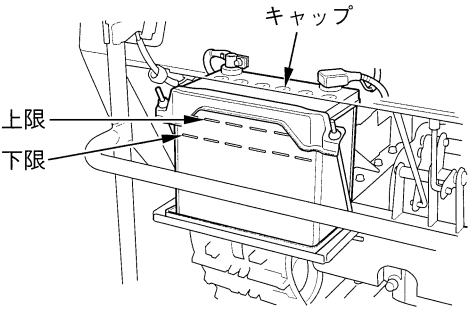
- 補給時タンクの中に、ゴミ等の異物が入らないよう十分注意してください。異物が混入すると変速機が故障する原因になります。
- 変速機オイルが著しく減少している場合は、直ちに作業を中止してお買いあげ販売店へご連絡ください。



バッテリの点検

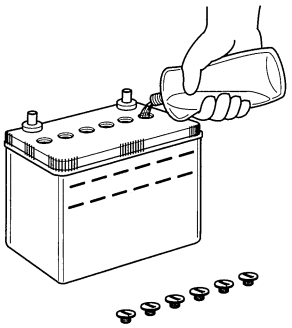
点検

バッテリの液面が各槽とも上限(UPPER LEVEL)と下限(LOWER LEVEL)の間にあるか点検してください。
同時にキャップの通気孔のつまりを点検してください。



補給

バッテリ液が少ないときはバッテリを外し、キャップを外して、バッテリ補充液(蒸留水)を上限(UPPER LEVEL)まで補給します。バッテリの取外し、取付けは 72 頁を参照してください。



⚠警告

- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

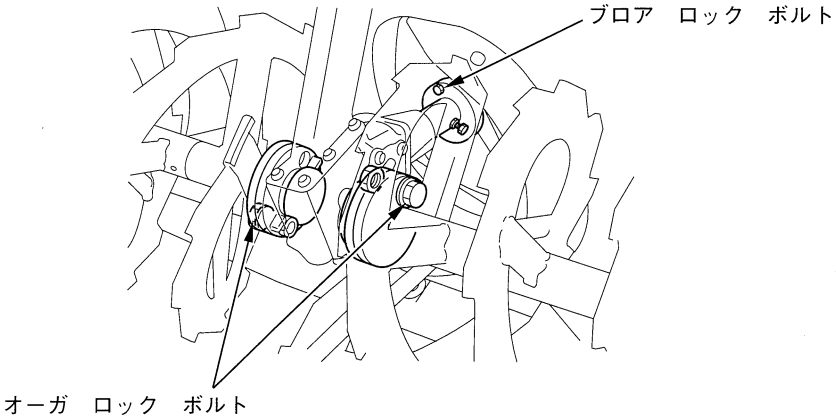
- 長時間使用しない場合には、バッテリの⊖端子を外しておいてください。
  長期間保管中は、6 か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER•LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

オーガ、ブロア　ロック　ボルトの点検

オーガ、ブロア　ロック　ボルトのゆるみ、折れを点検します。

ロック　ボルトは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。

もし折れている場合は70頁の手順に従って交換してください。



走行クラッチ　スイッチ・除雪クラッチ　スイッチの点検

走行クラッチ　スイッチと除雪クラッチ　スイッチの安全装置が正しく作動するか点検します。異常がある場合は直ちにお買いあげ販売店へ連絡し、点検・整備を受けてください。

⚠警告

これらの点検はエンジンを始動し、本機やオーガを動かして点検します。
点検する前に本機の周囲に人や障害物がないことを確認してください。また投雪口が、人や窓ガラスなどの方向に向いていないことを確認してください。

- 走行クラッチ　スイッチの点検

①本機を平坦な場所を選んで駐車し、駐車ブレーキ　レバーが**“駐車”**、変速レバーが**“N”**(中立)の位置になっていることを確認します。

②エンジンを始動し、エンジン回転調節レバーを**“低速”**の位置にします。

③走行クラッチ　スイッチを押します。(スイッチが点灯:緑)

④駐車ブレーキ　レバーを**"解除"**の位置にし、変速レバーを**"低速前進"**の方向へ動かします。

本機が低速で前進すれば正常です。

⑤走行クラッチ　スイッチを押します。(スイッチが消灯)本機が停止することを確認します。

⑥エンジンを停止し、変速レバーを**"N"(中立)**の位置に戻し、駐車ブレーキ　レバーを**"駐車"**の位置にします。

• 除雪クラッチ　スイッチの点検

①駐車ブレーキ　レバーが**"駐車"**、変速レバーが**"N"(中立)**の位置になっていることを確認します。

②エンジンを始動し、エンジン回転調節レバーを**"低速"**の位置にします。

③除雪クラッチ　スイッチを押します。(スイッチが点灯:緑)オーガが回転していることを確認します。

④除雪クラッチ　スイッチを押します。(スイッチが消灯)オーガの回転が停止することを確認します。

⑤エンジンを停止します。

その他の点検

次の点検も忘れずに行ってください。

1. 各部の締付け、ゆるみ、ガタはないか
2. 各部の作動状態
3. 異常箇所……前日悪かった所はないか

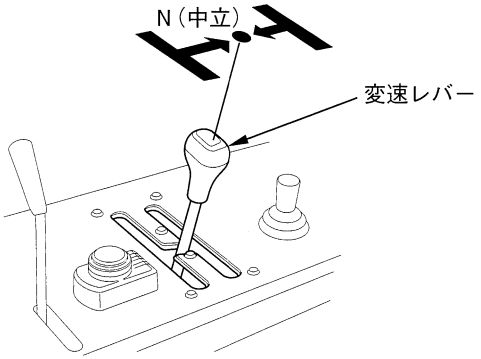
エ　ン　ジ　ン　の　か　け　か　た

⚠警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。急な坂道で変速レバーを“N”(中立)の位置にすると本機が空走する場合があります。

平坦路でのエンジンのかけかた

1. 駐車ブレーキ　レバーが、**“駐車”**の位置になっていることを確認してください。
2. 変速レバーが**“N”**(中立)の位置にあることを確認します。



3. エンジン　スイッチを**“運転”**の位置にします。走行クラッチ　スイッチ、除雪クラッチ　スイッチが消灯していることを確認してください。インジケータの表示ランプは、数秒間点灯し、消灯します。

取扱いのポイント

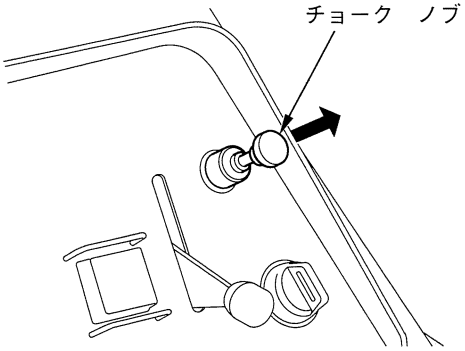
走行クラッチ、除雪クラッチが「入」になっているとエンジンがかかりません。

4. シュート　カバー、緊急停止スイッチが確実に取り付けられていること、緊急停止バーが押されていないことを確認してください。異常がある場合は、シューター表示ランプ(オレンジ)が点灯します。

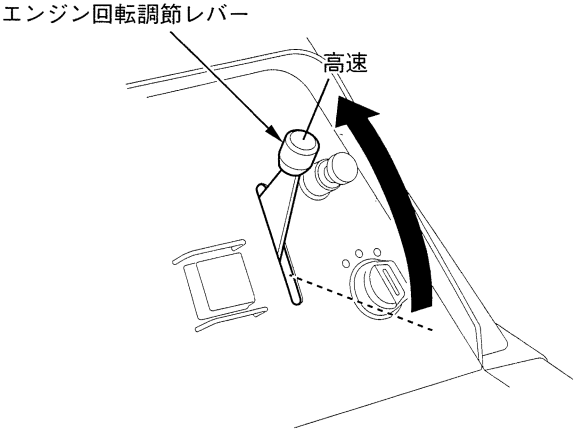
取扱いのポイント

カバーが外れていたり、緊急停止装置が作動しているとエンジンはかかりません。

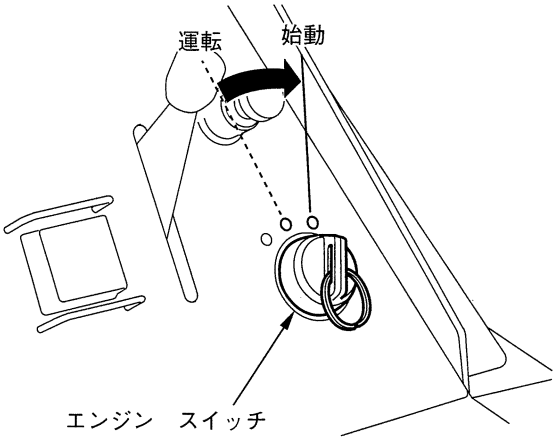
5. チョーク　ノブをいっぱいに引いてください。



6. エンジン回転調節レバーを**"高速"**の位置にします。



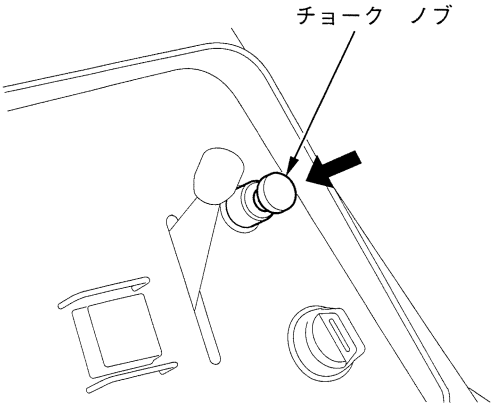
7. エンジン　スイッチを**“始動”**の位置まで回し、スタータをまわします。
エンジンが始動したらスイッチから手を離してください。**“運転”**の位置に戻ります。



取扱いのポイント

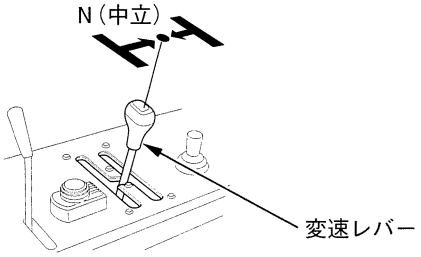
スタータを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。

8. 始動後、エンジン回転が安定するのを確認しながらチョーク　ノブを徐々に戻し、暖機運転を行ってください。

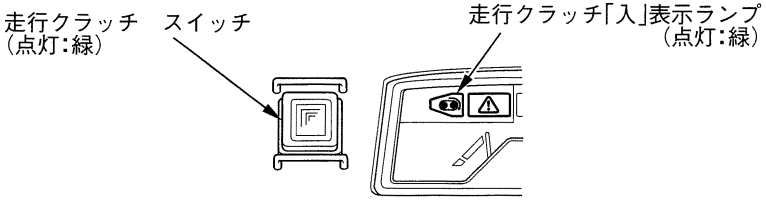


9. 暖機運転中に次の手順で変速機オイルを暖めてください。

−1. 駐車ブレーキ　レバーが**“駐車”**の位置になっていること、変速レバーが**“N”**(中立)になっていることを、もう一度確認してください。

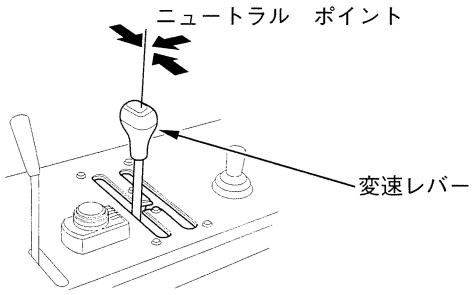


−2. 走行クラッチ　スイッチを押してください(スイッチが点灯:緑)。走行クラッチ「入」表示ランプが点灯(緑)することを確認してください。スイッチを押し続ける必要はありません。



万一斜面で停止したときのエンジンのかけかた

駐車ブレーキ　レバーを**“駐車”**の位置にし、変速レバーを低速側のニュートラルポイント(走行クラッチを「入」にしても本機が動かない位置)にしてエンジンを始動してください。駐車ブレーキ　レバーが**“解除”**の位置で、変速レバーを**“N”**(中立)の位置にすると、本機が空走することがあります。



運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

⚠注意

- 除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴などの防寒用の身支度をしてください。
- 本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

除雪作業は雪質など雪の状態に影響されます。最適な除雪作業をするため、必要に応じてソリ、オーガ　ハウジング高さを調節してください。
調節は調節基準表を目安にしてください。(47頁参照)

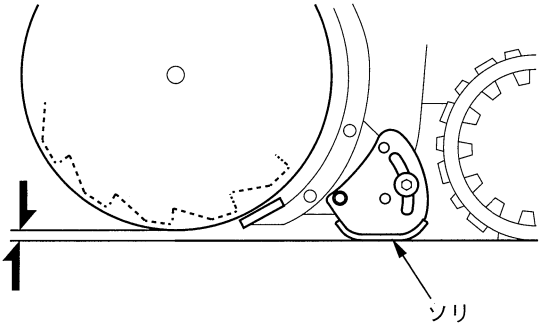
1.ソリの調節

⚠警告

ソリを調節するときは、必ずエンジンを停止し誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを外して行ってください。

除雪する路面の雪の状態に合わせて、路面との高さを調節します。

1. 本機を平坦な場所に置き、オーガ　ハウジング調節スイッチを操作して、除雪部を水平状態のまま接地させます。除雪部を下げ過ぎると、クローラ前部が浮上ります。クローラ前部が浮上らないように、除雪部を接地させてください。
2. エンジンを停止し、エンジン　スイッチ　キーを抜きます。
3. 除雪する路面の状態に合わせて、ボルトをゆるめてソリの高さを調節します。



取扱いのポイント

硬雪の段切り作業等でオーガの食込みが悪いときは、ソリを外してください。

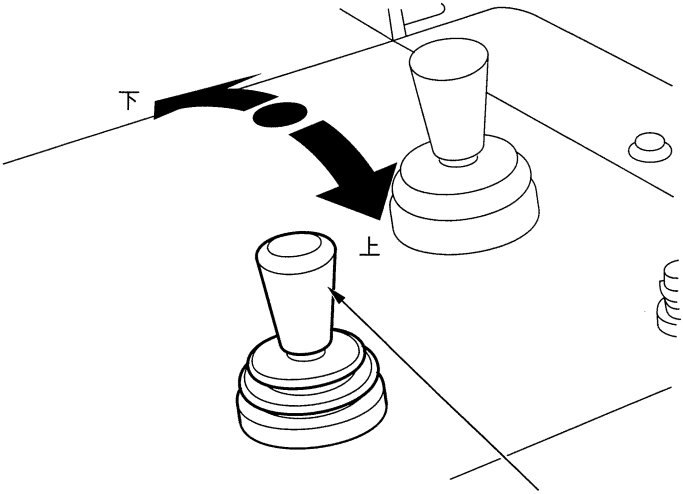
- ソリは左右同じ高さに調節してください。
- 調節後は必ずボルトを確実に締付けてください。
- 段切作業用に調節した状態で路面出し作業を行なわないでください。除雪部に悪影響をあたえます。

2.オーガ　ハウジング高さの調節

除雪部の高さを無段階に調節することができます。

路面の状態に応じて除雪部を接地させるか、さらにくい込ませるかあるいは少し浮かせるかを決め、オーガ　ハウジング調節スイッチで高さを調節します。

オーガ　ハウジング調節スイッチを**“下”**にすると除雪部は下がり**“上”**にすると上がります。スイッチから手をはなすとその位置で除雪部が停止します。



取扱いのポイント

調節スイッチを操作したまま保持しないでください。油圧シリンダが加熱して保護装置が働き、除雪部の調節ができなくなります。このときは操作をやめ、しばらく待ってから再度操作してください。

調節基準表(目安)

	※固雪除雪	一般除雪	凹凸路面除雪	仕上げ除雪	段切り(くい込み)
ソリ	「上限」位置	調節代 「中」位置	調節代「下限」 まで下げる	「中」位置	調節代 「上限」まで上げる
除雪部高さ	「くい込み」 位置	「接地」位置	「少し浮き」 または「接地」 位置	「くい込み」または 「接地」位置	「接地」または 「少し浮き」位置

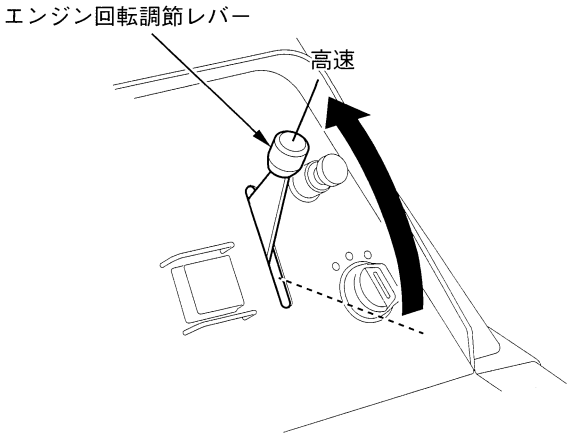
※硬い地面が出た条件での作業時では除雪部に悪影響を与えるおそれがありますので必ず雪上で使用されるようにお願い致します。

3.始動

始動については40頁～43頁を参照してください。

4.運転操作

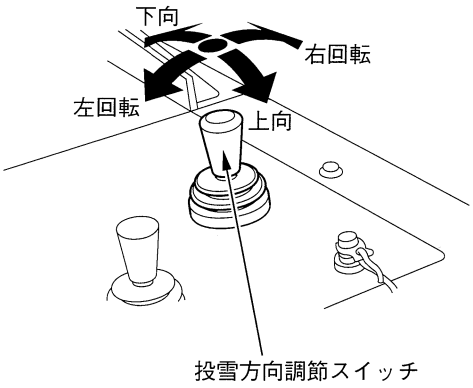
－1. 変速レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認し、エンジン回転調節レバーを“高速”にあわせます。

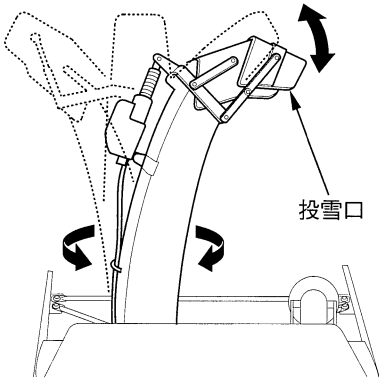


−2. 投雪方向調節スイッチで投雪距離と方向を調節します。

⚠注意

- 投雪距離や方向を変えるときには人や建物などに注意して行ってください。
- ボンネットを開けた状態で投雪方向調節スイッチを動かさないでください。
  ボンネット前端とシュート又はハーネスが干渉する場合があります。

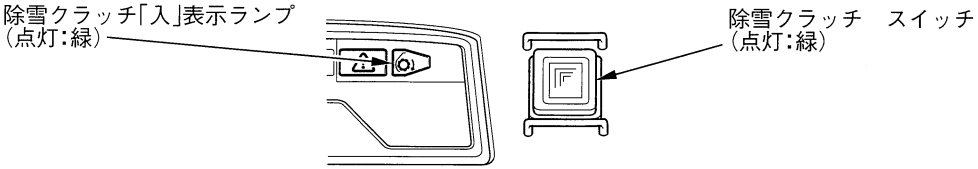




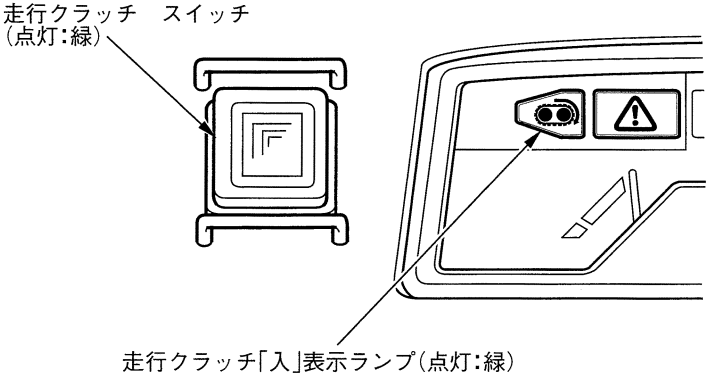
−3. 除雪クラッチ　スイッチを押し(スイッチが点灯:緑)除雪部を回転させます。
除雪クラッチ「入」表示ランプ(緑)が点灯します。

⚠注意

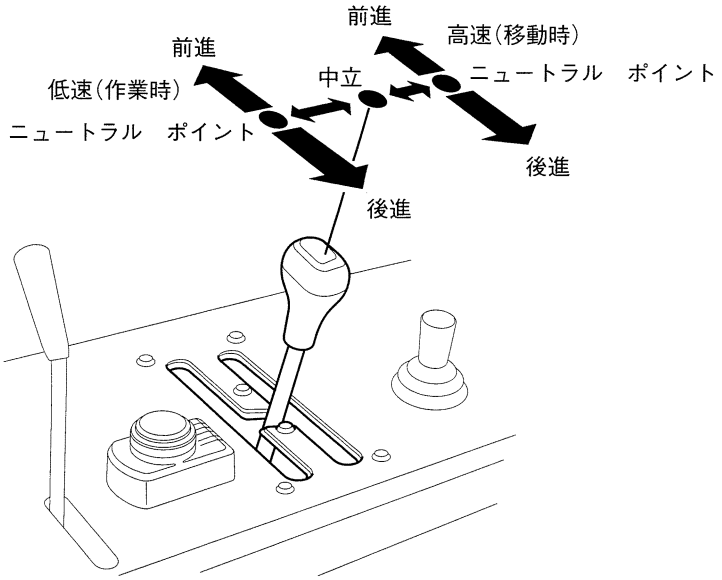
除雪クラッチおよび走行クラッチ　スイッチを押す(スイッチが点灯:緑)と本機が作動します。周囲の安全を十分に確認してください。



－4. 変速レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認した後に、走行クラッチ　スイッチを押します(スイッチが点灯:緑)。(走行クラッチ「入」表示ランプが点灯します。)



－5. 移動時は高速側、作業時は低速側に変速レバーを操作し雪質、積雪量等条件に合わせて変速レバーの位置を選び車速を設定します。

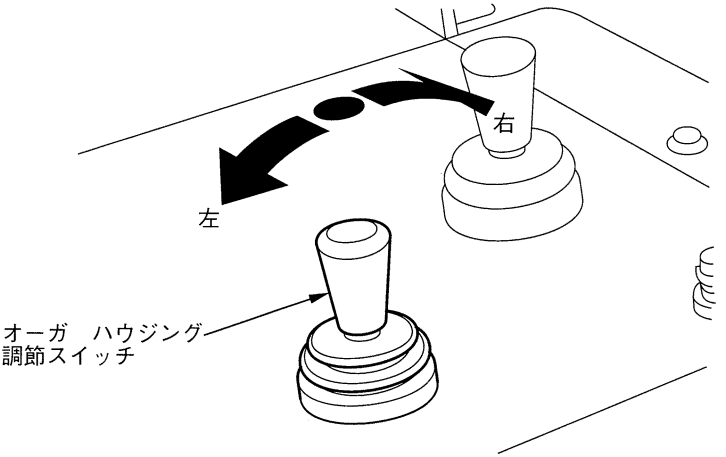


5.除雪部の傾き調節

除雪作業中本機が傾いてきたときは、オーガ　ハウジング調節スイッチで除雪部の傾きを調節します。

本機が右側に傾いたとき ‥‥オーガ　ハウジング調節スイッチを左側に倒します。

本機が左側に傾いたとき ‥‥オーガ　ハウジング調節スイッチを右側に倒します。



取扱いのポイント

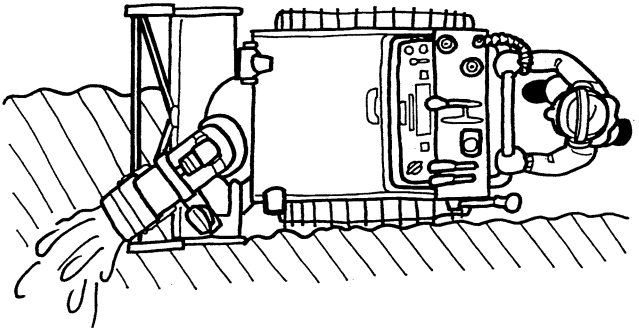
調節スイッチを操作したまま保持しないでください。油圧シリンダが加熱して保護装置が働き、除雪部の調節ができなくなります。このときは操作をやめ、しばらく待ってから再度操作してください。

6.除雪のしかた

除雪作業はエンジンの回転を落さず行うことが重要です。そのためには雪による負荷をさけるため、変速レバーは低速(作業用)で行ってください。低速の位置にしてもエンジン回転が落ちる場合は次の要領を参考にして、除雪作業を行ってください。

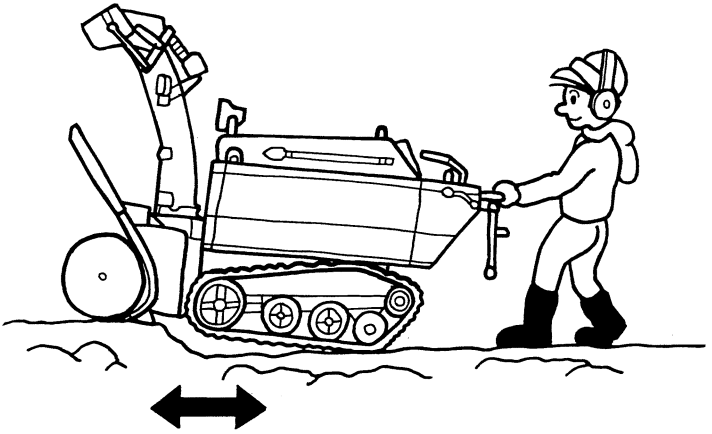
• 除雪幅を狭くする方法

重い雪、深い雪や固い雪の場合は、できるだけ遅い速度で除雪してください。(エンジン回転が低下して投雪距離が2～3 mのような状態は負荷のかけすぎです。)また、このような場合除雪部に掛かる雪幅を狭くして行ってください。



• 前後進除雪の方法

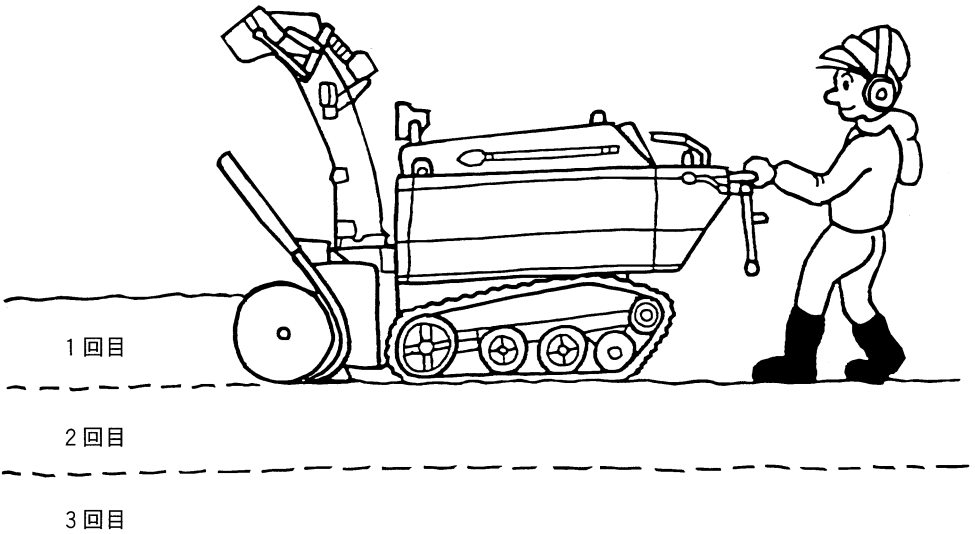
固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、前、後進を繰り返して除雪してください。



• 段切除雪の方法

積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合は段階的に除雪を行ってください。

1. のぼるときは、
   ・オーガ　ハウジング調節スイッチを操作し、除雪部を少し上げます。
2. くいこませるときは、
   ・オーガ　ハウジング調節スイッチを操作し、除雪部を少し下げます。
   ・必要に応じて、ソリの位置を調節します。(45頁参照)



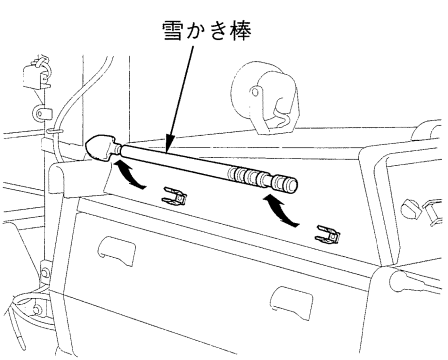
段切除雪で除雪部が雪に潜りやすくなってしまう場合、本機後側のウェイト取付け部に、指定ウェイト(別売部品)を取付けて、調節することができます。(指定ウェイトの取付けは30頁参照)

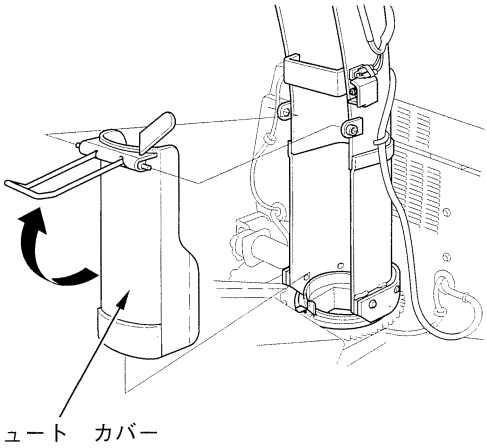
• 投雪口に詰まった雪の除去

⚠警告

投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、エンジン　スイッチ　キーを抜き誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。
エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

1. 除雪作業中、投雪口に雪が詰まったときは、シュート　カバーを外して雪かき棒で除去します。





2. シュート　カバー、雪かき棒は使用後、必ず元の位置にセットしてください。

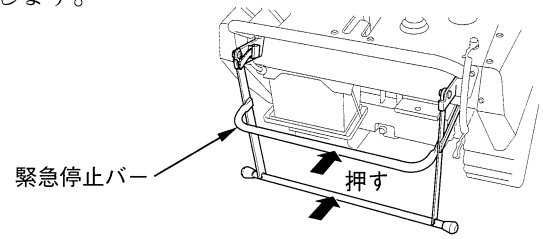
取扱いのポイント

シュート　カバーが確実にセットされていないと、シューター表示ランプ(オレンジ)が点灯し、エンジンが始動しない機構になっています。

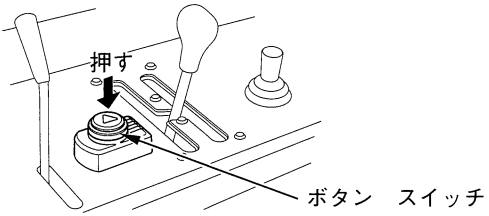
除　雪　機　の　止　め　か　た

● 緊急にエンジンを停止する場合

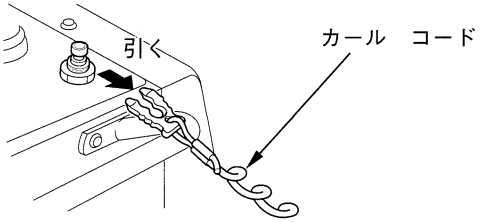
・緊急停止バーを押すと、走行、除雪クラッチが「切」になりエンジンが停止し、本機も停止します。



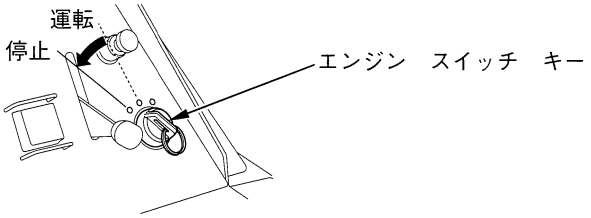
・緊急停止スイッチ(ボタン式)を押すと走行、除雪クラッチが「切」になりエンジンが停止し、本機も停止します。



・緊急停止スイッチ(カール　コード式)のカール　コードを引きぬくと、走行、除雪クラッチが「切」になりエンジンが停止し、本機も停止します。

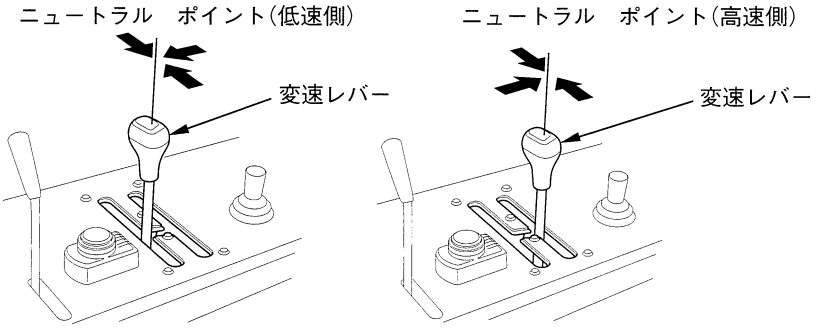


・エンジン　スイッチ　キーを“停止”にして、キーを抜きます。

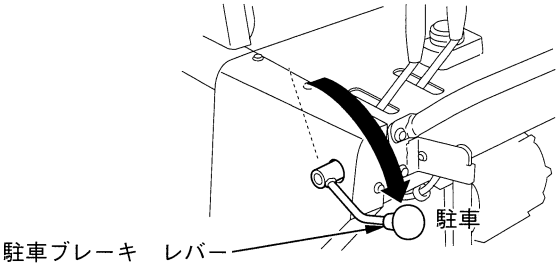


• 通常停止の場合

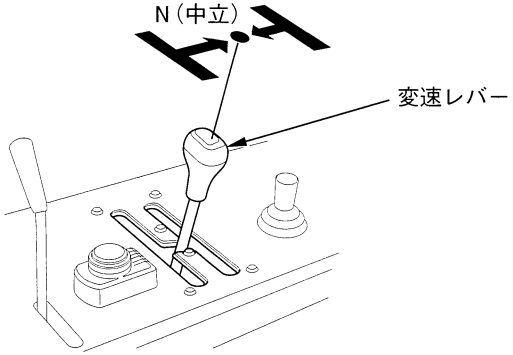
1. 変速レバーを低速側または高速側のニュートラル　ポイントの位置にします。



2. 駐車ブレーキ　レバーを**“駐車”**の位置にします。

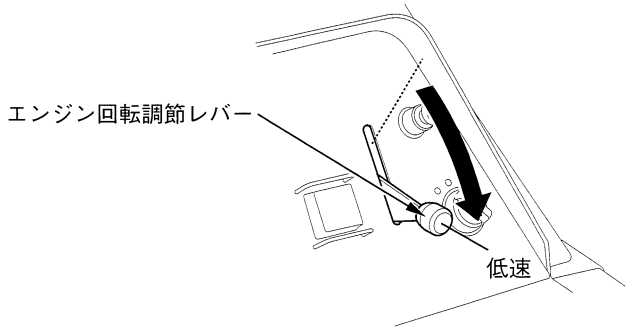


3. 変速レバーを**“N”**(中立)の位置にします。

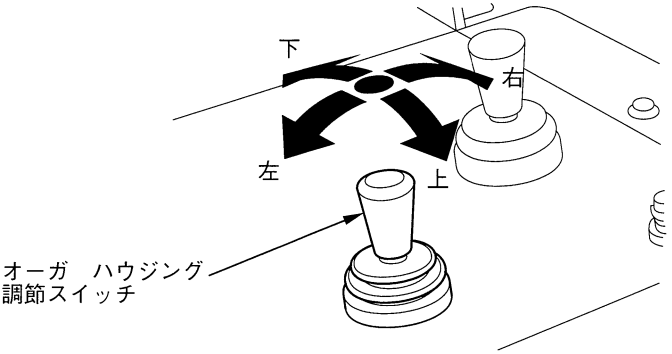


4. 点灯している走行クラッチ　スイッチおよび除雪クラッチ　スイッチを押します。スイッチが消灯し、走行、除雪クラッチが「切」になります。

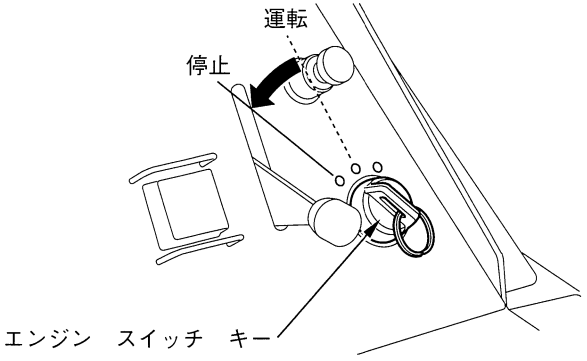
5. エンジン回転調節レバーを**“低速”**にします。



6. オーガ　ハウジング調節スイッチを操作して除雪部を完全に路面へ接地させます。



7. エンジン　スイッチを**“停止”**の位置にして、キーを抜きます。

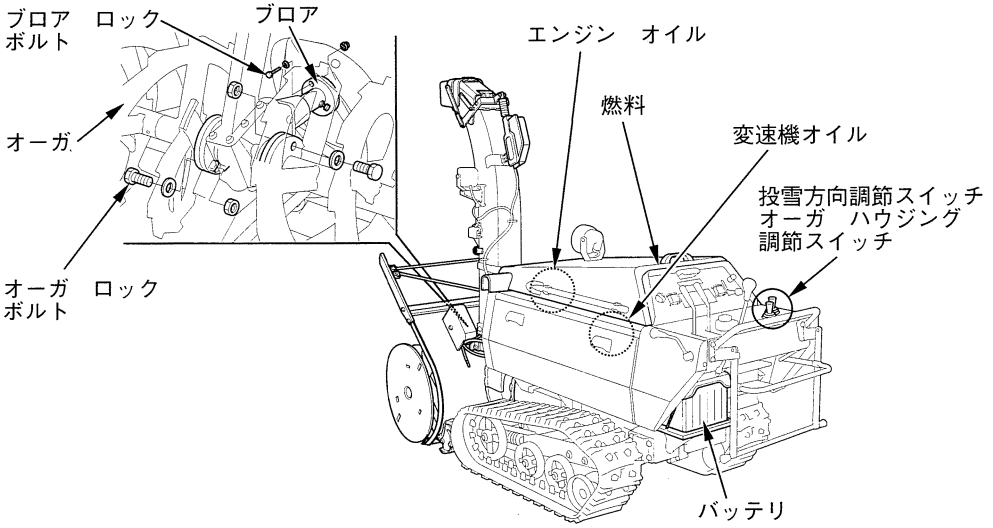


定 期 手 入 れ を 行 い ま し ょ う

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行ってください。

- エンジン　オイル……規定量入っているか。
  漏れはないか。
- HST(無段変速機)オイル……規定量入っているか。
  漏れはないか。
- 燃料……残量
- 各部の締付け……ゆるみ、がたはないか。
- バッテリ……バッテリ液の点検(37頁参照)
- ソリ……ソリの高さ調節(45頁参照)
- 投雪方向調節スイッチ、オーガ　ハウジング調節スイッチ……作動の確認。
- オーガ、ロック　ボルト、ブロア、オーガ　ハウジング等の損傷やゆるみについては、特に点検を行ってください。
- 前日までの異常箇所はなかったか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

お買いあげいただきました除雪機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時間		作業前点検	初回20時間目	除雪時期初めの点検	(毎年)終りの点検
エンジン　オイル	点検	○			
	交換		○	(100時間毎) ○	
オーガ、ブロア　ロックボルト	点検	○			
無段変速機オイル	点検	○			
	交換	※2年毎			
バッテリ液	点検	○			
	比重			○※	
ミッション　オイル	交換	※2年毎			
オーガ　ミッション　オイル	交換	※2年又は200時間毎交換			
点火プラグ	清掃、調整			◎	
クローラ	点検、調整			◎	
燃料チューブ	点検			○	
	交換	※2年毎			
エア　クリーナ	清掃			○	
	交換	※1年毎又は300時間毎交換(紙製ろ過部)			
オーガ　ベルト、走行ベルト	点検、調整			◎※	
走行クラッチ　ケーブル、 オーガ　クラッチ　ケーブル	点検			◎※	
スロットル　ケーブル、チョーク　ケーブル サイド　クラッチ　ケーブル	点検、調整			◎※	
格納時の各部防錆部	塗布				○
燃料フィルタ	点検			○	
1次、2次	交換	※2年又は400時間毎交換			
キャブレータ、燃料タンク	燃料抜き				○※
燃料タンク、燃料ろ過網	清掃	※4年毎			
オイル　フィルタ(エンジン)	交換	※1年毎又は200時間毎交換			
各部締付け	増締め				○
吸排気弁すき間	点検、調整	※1年又は300時間毎			
オーガ　ブレーキ	点検、調整			◎※	
各部の作動				○	

◎印は消耗品であり、使用条件により交換時期が変わります。損傷など異常がある場合には早めに交換してください。

※印のついた項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店にお申しつけください。

やさしい点検・整備

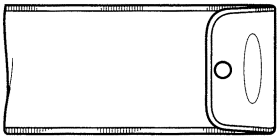
⚠警告

点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを外し、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。

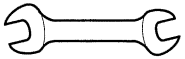
携帯工具と付属部品

工具は点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。
(　)は、数量を表示しています。

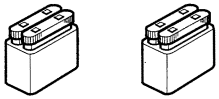
《ツール　バッグ》



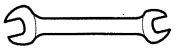
ツール　バッグ



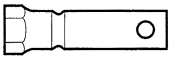
スパナ　12×17 (2)



スペア　ヒューズ
30 A (2)
10 A
3 A
ホルダ (2)



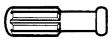
スパナ　10×14



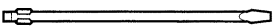
プラグ　レンチ



エンジン吊り具



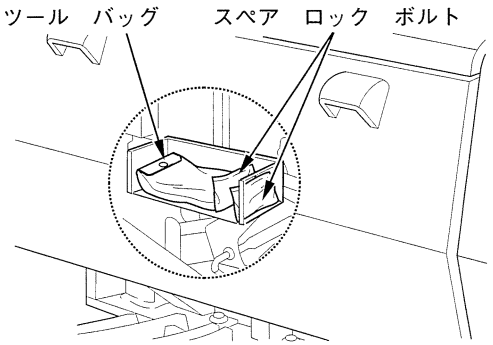
ドライバ　ハンドル



(−) ドライバ
(キャブレータのドレン　スクリュに使用)

《スペア　ロック　ボルト》

オーガ用	ブロア用
	
六角ボルト 10×25 mm (10)	六角ボルト 8×25 mm (10)
 スプリング ワッシャ (10)	 スプリング ワッシャ (10)
 六角ナット (10)	 六角ナット (10)



右側サイド　カバーの内側に格納

エンジン　オイルの交換

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

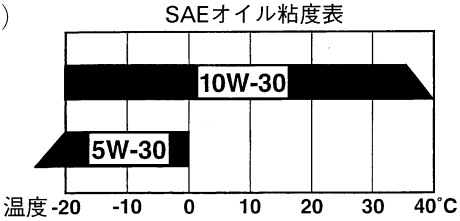
《交換時期》

初回：20時間目、以後：年一回除雪時期の初め、または100時間運転時

《推奨オイル》

（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）

ホンダ純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30エンジン　オイル。



《規定量》オイル交換時：

HS2011Z•••••• 1.5 ℓ

HS2411Z•••••• 1.6 ℓ

オイル　フィルタ交換時：

HS2011Z•••••• 1.8 ℓ

HS2411Z•••••• 1.9 ℓ

取扱いのポイント

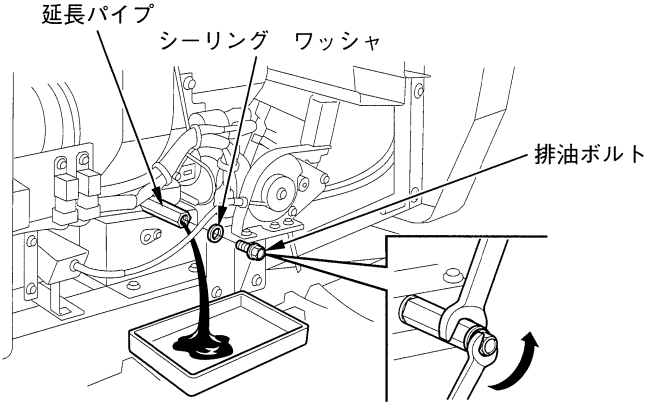
気温0 °C以上の場合は、ホンダ純正ウルトラU汎用SAE10W-30のオイルをご使用ください。

交換のしかた

⚠警告

エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

1. オイル給油キャップを外します。
2. 排油ボルト、シーリング　ワッシャを外して、オイルを抜きます。
   排油ボルトを外す時は延長パイプをスパナで固定して外してください。
3. 排油ボルトをきれいにして、新しいシーリング　ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。



4. 新しいエンジン　オイルをレベル　ゲージの上限まで注入します。(33頁参照)
5. 注入後、オイル給油キャップを確実に締付けます。

取扱いのポイント

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けらています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- 外したシーリング　ワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリング　ワッシャを使用してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。

エア　クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア　クリーナが目詰まりすると出力不足や燃量消費が多くなるので定期的に清掃、交換(紙製ろ過部のみ)をしましょう。

《清掃時期》　年一回除雪時期の初め

《交換時期》　紙製ろ過部のみ300時間運転毎または1年毎

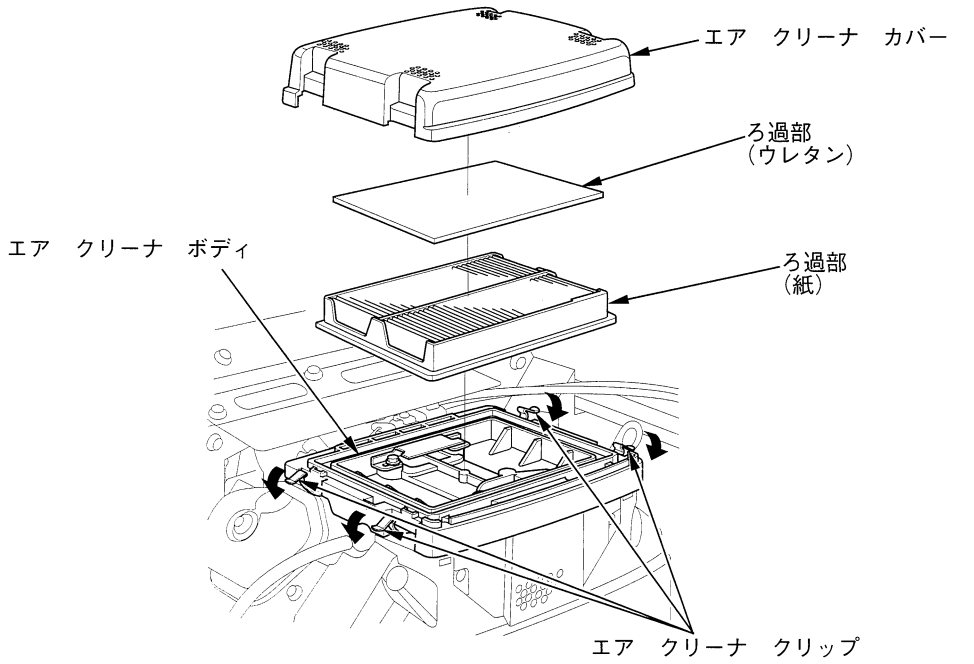
清掃のしかた

1. エア　クリーナ　クリップ4つを外し、エア　クリーナ　カバーを取外します。

取扱いのポイント

エア　クリーナ　ボディ内側にホコリやゴミを落とさないように注意してください。キャブレータの詰まりなどの原因になります。

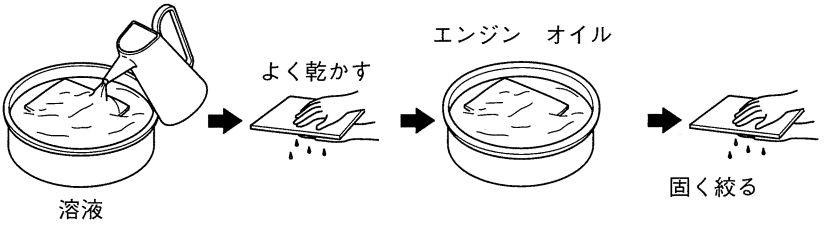
2. 紙製ろ過部、およびエア　クリーナ　カバー裏側のウレタン製ろ過部を取外します。



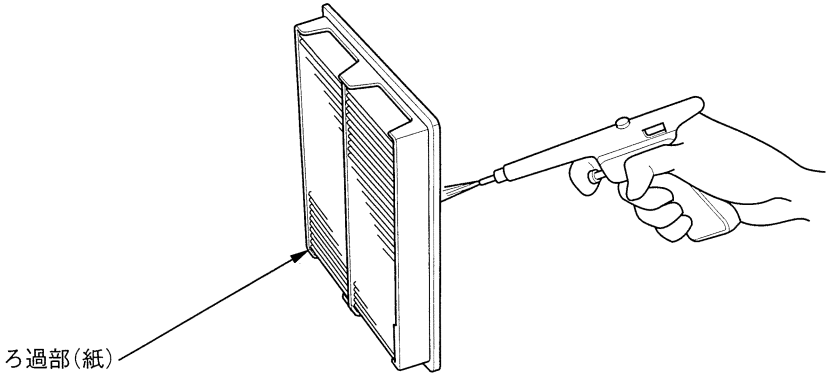
3. ろ過部(ウレタン)を洗い油で洗浄し、固くしぼってからエンジンオイル(ウルトラU汎用－SAE10W-30等)に浸し、ウレタンにオイルをつけすぎないように固く絞ります。

⚠注意

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で洗浄を行ってください。



4. ろ過部(紙)の内側から圧縮空気を吹き付けるか、回りを軽く叩いて汚れを落とします。
・汚れがひどい場合は交換してください。(交換時期:62頁参照)



5. エア　クリーナ　カバーにろ過部(ウレタン)を取付けます。
6. ろ過部(紙)をエア　クリーナ　ボディに取付けます。
7. エア　クリーナ　カバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、カバーやろ過部(ウレタン、紙)が取付けられていない場合は、エンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン、紙)は確実に取付けてください。

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

取扱いのポイント

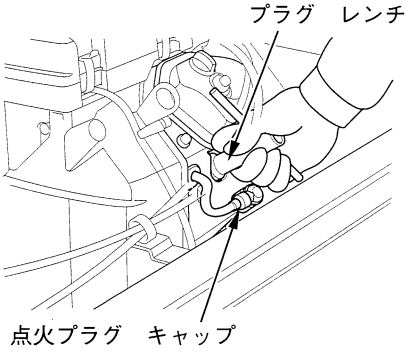
- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付てください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》　100時間運転毎

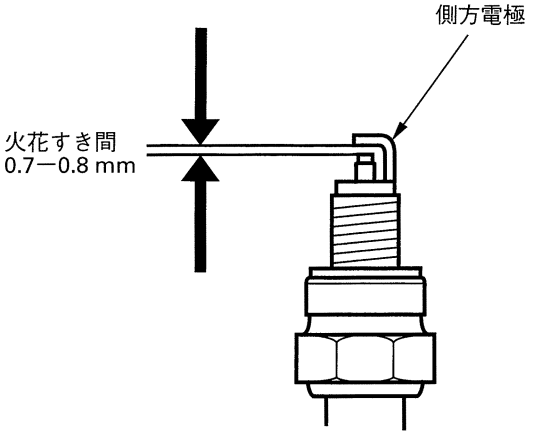
《指定プラグ》　ZGR5A (NGK)
J16CR-U (DENSO)

清掃のしかた

1. 点火プラグ　キャップを取外してください。
2. プラグ　レンチ(同梱工具)で点火プラグを取外します。



3. 点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。
4. 側方電極を曲げて火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.7－0.8 mm
5. 取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けます。

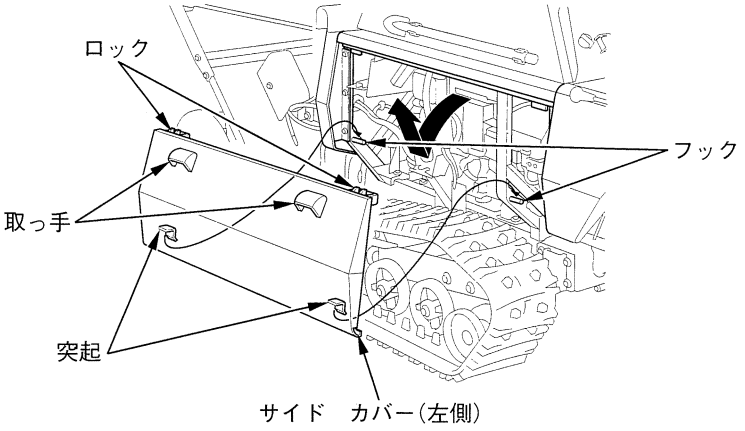


フューエル　ストレーナ(１次)の点検

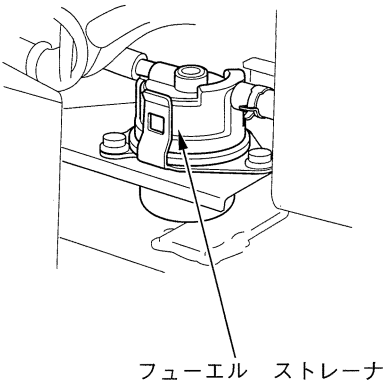
燃料タンクと燃料ポンプの間にフューエル　ストレーナが取付けてあります。フューエル　ストレーナの中に水がたまったり、目詰まりすると、出力不足や始動不良をおこします。定期的に点検してください。

《**点検時期**》100時間運転毎または除雪時期初め

1. 左側サイド　カバーを外します。取っ手を手前に引いてロックを外し、サイドカバーを上に引き上げます。



2. フューエル　ストレーナを点検し、中に水や沈殿物がある場合はお買いあげ販売店で交換してください。



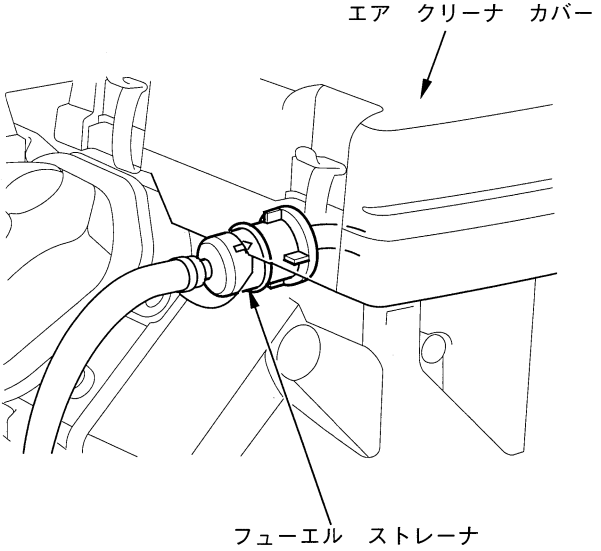
3. サイド　カバーを取付けます。

フューエル　ストレーナ(２次)の点検

燃料ポンプとキャブレータの間にフューエル　ストレーナが取付けてあります。フューエル　ストレーナの中に水がたまったり、目詰まりすると、出力不足や始動不良をおこします。定期的に点検してください。

《点検時期》100時間運転毎または除雪時期初め

フューエル　ストレーナを点検し、中に水や沈殿物がある場合はお買いあげ販売店で交換してください。



クローラ張り調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検時期》

年1回除雪時期の初め

《点検のしかた》

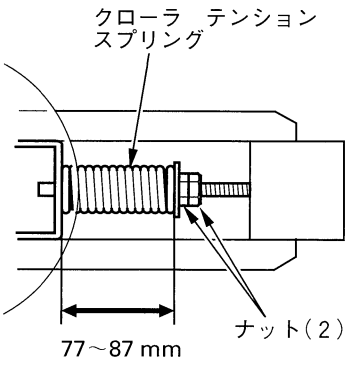
クローラ　テンション　スプリングの寸法が77～87 mmになっているか点検します。

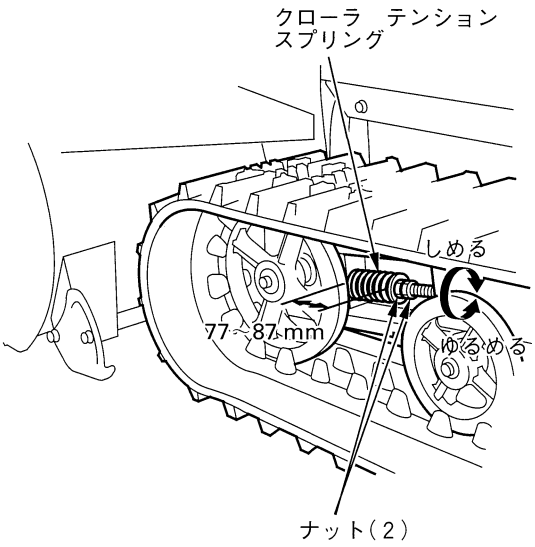
《調整のしかた》

1. テンション　ボルトのナット2コをゆるめて規定寸法になるように調整してください。
2. 調整後2コのナットを確実に締付けてください。
3. 左右同じ方法で点検、調整してください。

取扱いのポイント

- クローラ　ゴムが凍結しているときは正しい張り調整ができません。
  必ず凍結を取り除いてから調整してください。
- 調整後本機を前、後進させ再度寸法を点検してください。





除雪部の点検

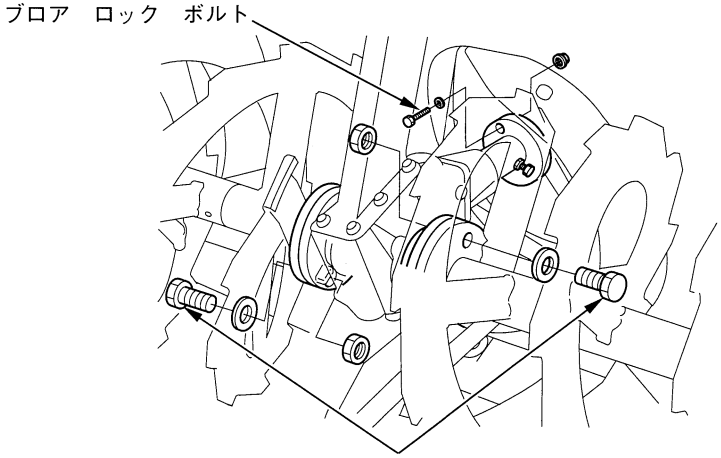
オーガ、オーガ　ハウジング、ブロアに損傷のないことを点検します。

オーガ、ブロア　ロック　ボルトのゆるみ、折れを点検します。

もし折れている場合は下記の手順で同梱されているロック　ボルトと交換してください。

ロック　ボルトの交換方法

1. 本機を平坦な場所に水平に止め、駐車ブレーキ　レバーを**"駐車"**の位置にしてください。
2. 除雪クラッチ、走行クラッチを**「切」**にしてください。(クラッチ　スイッチが消灯)
3. オーガ　ハウジング調節スイッチでオーガをいちばん下まで下げてください。
4. エンジン　スイッチを**"停止"**の位置にしエンジン　スイッチ　キーを外します。各回転部が停止していることを確認してください。
5. オーガ、ブロアの凍結または異物(石、棒、針金など)を取除きます。
6. 除雪部を点検してください。
7. 折れたロック　ボルトを取除き、新しいロック　ボルトと交換し、確実に締付けてください。



☆新しいロック ボルト、ナットはお買いあげ販売店にご注文ください。

バッテリ

《端子の手入れ》

端子のゆるみ、腐食は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、バッテリを取外しぬるま湯で清掃してください。端子部が腐食している場合は、ワイヤ　ブラシかサンド　ペーパでみがきます。清掃がおわったら、端子接続後グリースを塗布してください。

⚠警告

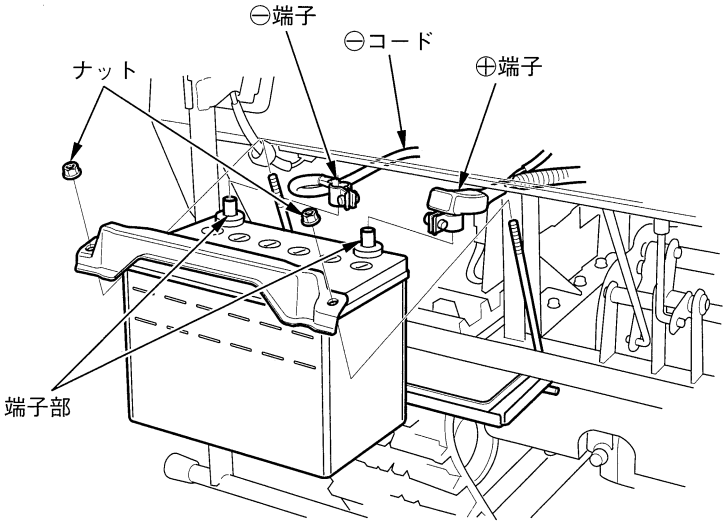
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

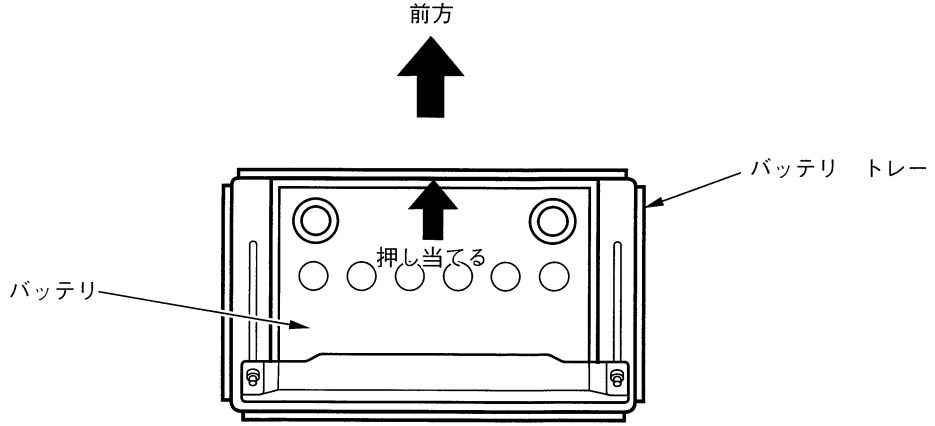
- 長時間使用しない場合には、バッテリの⊖端子を外しておいてください。
  長期間保管中は、6か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER•LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

バッテリの取外し・取付け

1. バッテリ㊀端子の接続を外します。
2. バッテリ㊉端子の接続を外します。
3. ナットをゆるめて、バッテリを引き出します。



4. 逆の手順で取付けます。
   ・バッテリは、バッテリ　トレーの前側に押し当てて固定してください。



ヒューズについて

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

ヒューズが切れると、

ブレード　ヒューズ:

・3 A…　エンジンが回りません。
　　走行クラッチ、除雪クラッチが入りません。
・10 A…エンジンが回りません。
　　走行クラッチ、除雪クラッチが入りません。
・30 A…シュート調節が出来ません。
・30 A…走行クラッチ、除雪クラッチが入りません。

ブロック　ヒューズ:

・30 A…エンジンが回りません。
　　走行クラッチ、除雪クラッチが入りません。
・60 A…オーガ調節が出来ません。

取扱いのポイント

指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

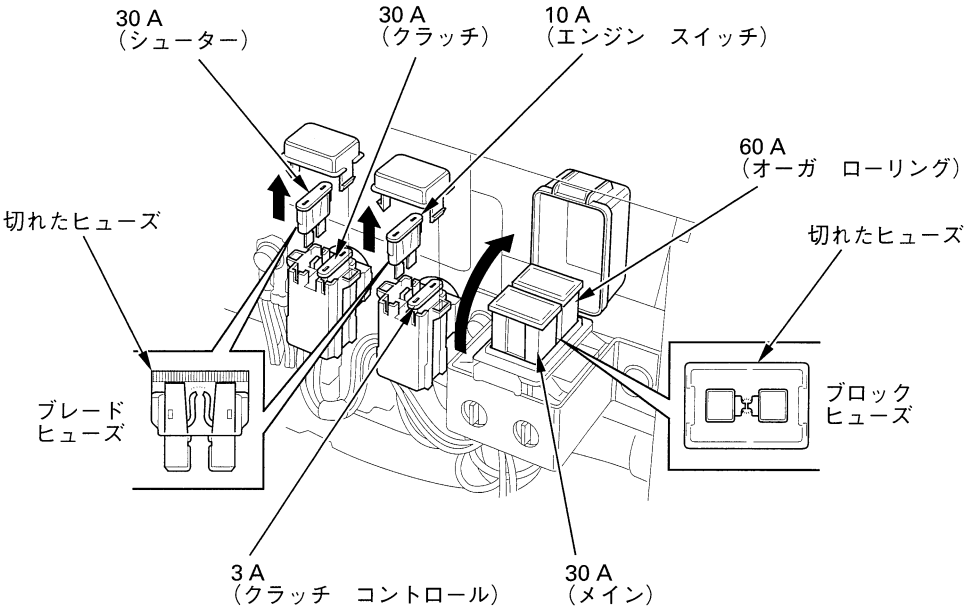
1. 左側サイド　カバーを開けてください。(29頁参照)
2. 切れたブレード　ヒューズを新品のブレード　ヒューズ(3 A、10 A、30 A)と交換してください。

☆指定ヒューズは、お買いあげ販売店にご注文ください。

3. 30 A、60 Aブロック　ヒューズの交換は、お買いあげ販売店で修理を受けてください。

取扱いのポイント

3 A、10 Aヒューズを逆にセットしないでください。故障の原因になります。



各部の作動点検

年一回除雪時期の初めに、次の点検を行ってください。

・エンジンの始動、停止

・レバー類の作動

・スイッチ類の作動

・その他の可動部分の作動

運　搬　す　る　と　き　は

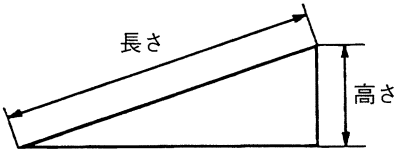
アユミ板を使ってトラックへの積み降ろし

⚠警告

車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。
   本機の総重量：585 kg（別売部品のウェイト取付け時：615 kg）
3. 下の表を目安に傾斜角度が15度以下になるようなアユミ板を選んでください。



アユミ板の長さ	2.5 m	3.0 m	3.5 m
地面からアユミ板までの高さ	50 cm	60 cm	70 cm

4. 幌または、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。
5. 燃料が十分あるか確認してください。"空"に近いとエンストしてしまうことがあります。

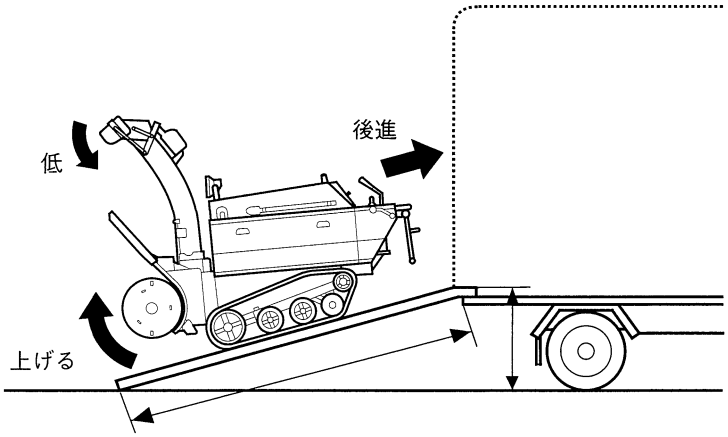
《手順》

1. アユミ板の幅をクローラの幅に合わせます。
2. エンジンを始動し、オーガ　ハウジング調節スイッチで、オーガを最上位置まで上げます。
3. 投雪方向調節スイッチで投雪口を下までいっぱいに下げます。

4. 変速レバーを低速(作業用)、後進に入れ十分に車速を落として、後進でアユミ板を登ります。
5. 除雪部が幌などに当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

⚠注意

- アユミ板の上を移動途中に、サイド　クラッチ　レバーによる操作を絶対に行わないでください。アユミ板から本機が落ちる場合があります。
- アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は変速レバーを低速側のニュートラル　ポイント(走行クラッチを「入」にしても本機が動かない位置)にして再始動してください。(43頁参照)
  変速レバーは“N”(中立)の位置にしないでください。本機が空走することがあります。



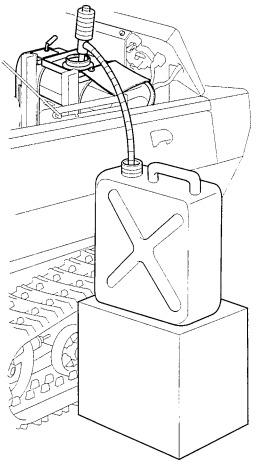
長期間使用しないときの手入れ

降雪シーズンも終わり長期保管するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

1. 保管するときは、エンジン　スイッチ　キーを外してください。
2. 燃料タンク、キャブレータ(気化器)の燃料を抜きます。

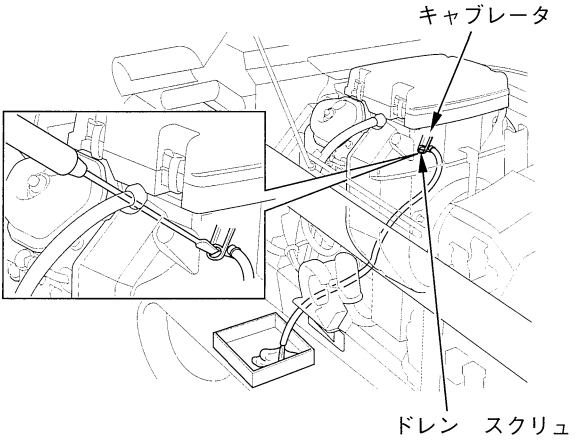
《抜きかた》

1. 燃料タンク内の燃料を抜きます。



2. 左側サイド　カバーを取外します。(29頁参照)

3. キャブレータ内の燃料を抜きます。
   燃料は自然劣化します。必ず抜いてください。
   −1. 携帯工具の(−)ドライバを使い、キャブレータのドレン　スクリュをゆるめ、燃料を容器に受けます。
   −2. 完全に燃料が抜けたら、ドレン　スクリュを締めます。



4. 左側サイド　カバーを取付けます。

・左側サイド　カバーを取付けるときは、サイド　カバーの突起を本機側のフックに入れてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

3.バッテリの手入れ

保管時は、バッテリの㊀端子を外しておいてください(72頁参照)。

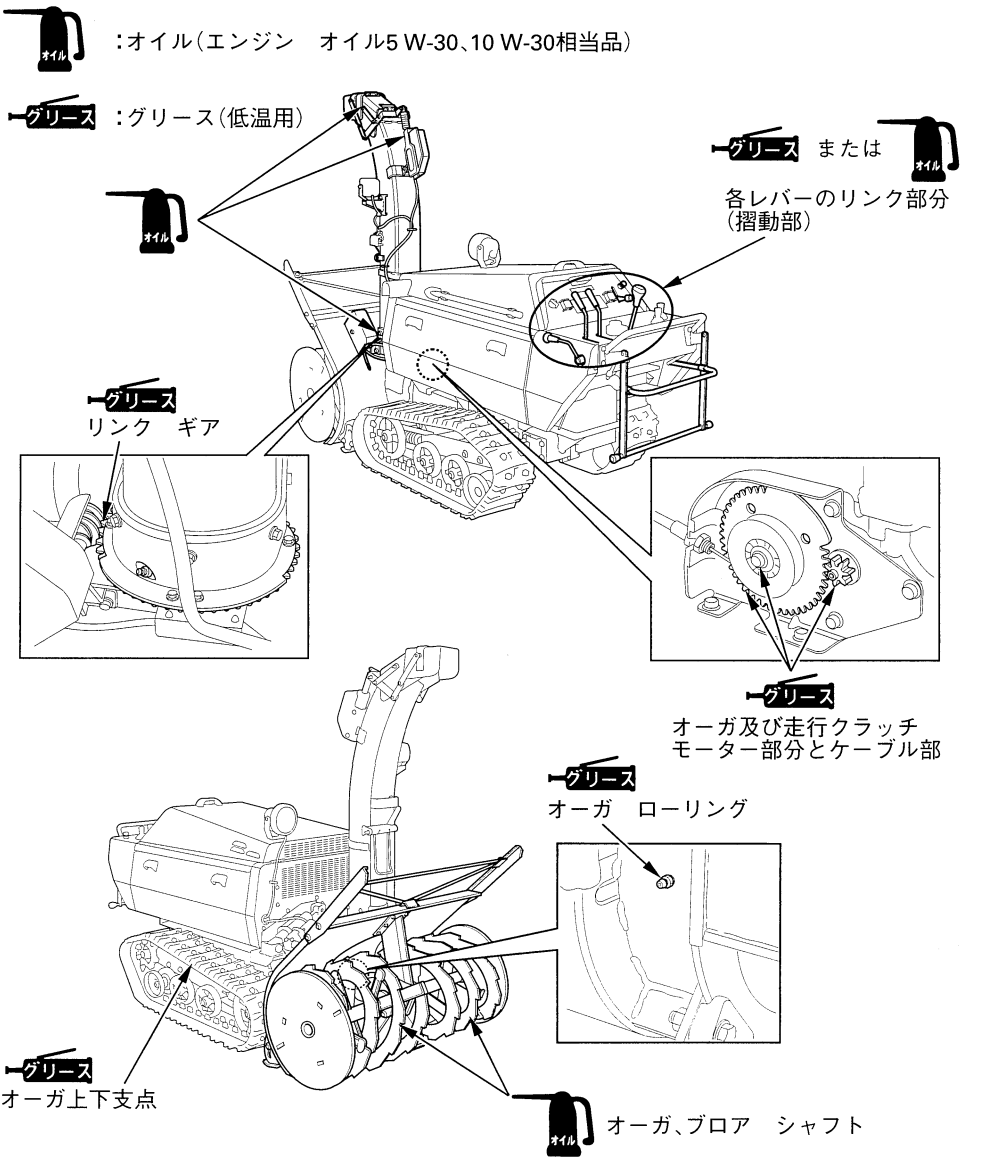
長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので6ヵ月に一度および除雪時期の初めと、終わりにバッテリを外して補充電を行ってください。

充電器は12 V用をご使用ください。

充電時間：4.5 Aで約10時間(標準)

4. 保管時の給油箇所

水気、汚れを拭きとり、乾燥後回転部、摺動部にオイルまたはグリースを注油してください。



故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店へお申しつけください。

始動しないときは、次の点を確かめましょう。

1. 始動方法は、取扱説明書どおりですか?
2. ガソリンはありますか?
3. エンジン　オイルは規定量ありますか?
4. バッテリ　コードは確実に接続されていますか?
5. ヒューズは切れていませんか?
6. 点火プラグ　キャップは確実に取付けられていますか?
7. 点火プラグのすき間は正しいですか?
8. 点火プラグは汚れていませんか、または火花は出ていますか?
9. 緊急停止スイッチのカール　コードは外れていませんか?

• プラグの火花確認手順

～1. 点火プラグからプラグ　キャップを2気筒とも取外します。

～2. 点火プラグをエンジンから取外し、点火プラグ　キャップに取付けます。

～3. 点火プラグ穴から離れた場所で、点火プラグのネジ部をエンジン本体に確実にアースさせます。(感電を避けるため点火プラグ　キャップ以外には触れないでください。)

～4. エンジン　スイッチを"始動"の位置にして、点火プラグの電極に火花が出るか確認してください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 燃料がこぼれた場合は、点火プラグの火花確認やエンジンを始動する前にふき取り良く乾かしてから行ってください。
- ガソリンに引火するおそれがあるのでプラグ穴の近くで火花確認をしないでください。またプラグ穴に手や顔を近づけないでください。

・火花が出ないときは、新しい点火プラグと交換するか、お買いあげ販売店にお申しつけください。

主　　要　　諸　　元

名　　称	ホンダ　スノー　ファイター HS2011Z	ホンダ　スノー　ファイター HS2411Z
型　　式	SZBL	SZBJ

エンジン

名　　称	ホンダGX620K1	ホンダGX670
最　高　出　力	14.7 kW (20 PS)/3,600 rpm	17.7 kW (24 PS)/3,600 rpm
排　気　量	614 cm^3	670 cm^3
内　径　×　行　程	77 × 66 mm	77 × 72 mm
始　動　方　式	セルフ　スタータ	
点　火　方　式	トランジスタ　マグネト点火	
オ　イ　ル　容　量	1.5 ℓ （フィルタ交換時 1.8 ℓ）	1.6 ℓ （フィルタ交換時 1.9 ℓ）
燃料タンク容量	25 ℓ	
点　火　プ　ラ　グ	ZGR5A (NGK)，J16CR-U (DENSO)	

フレーム

全　　長	2,330 mm
全　　幅	1,100 mm
全　　高	2,040 mm
乾　燥　重　量	565 kg
除　雪　幅	1,100 mm
除　雪　高	740 mm
投　雪　距　離	最大25 m（雪質および投雪方向により異なります。）

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

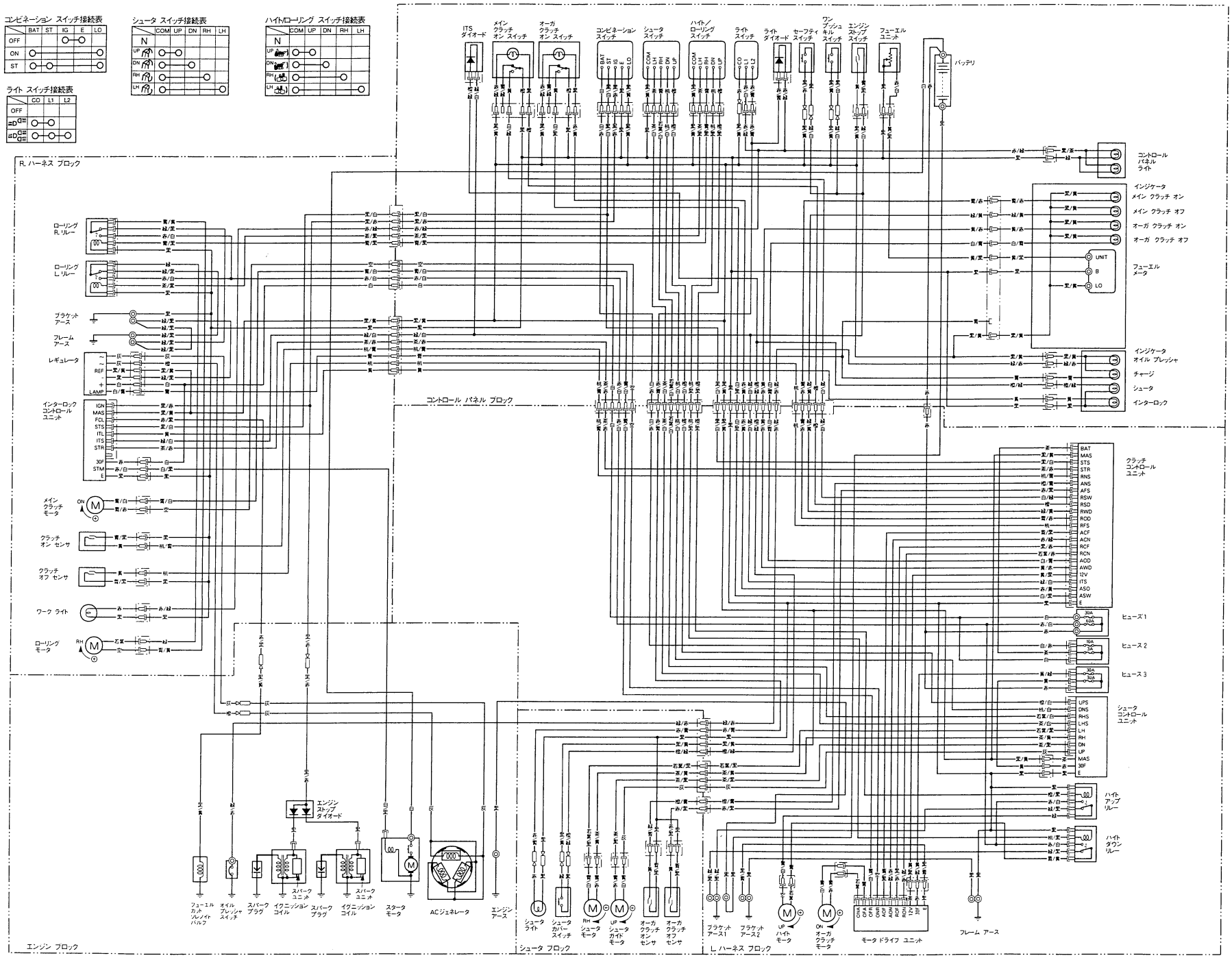
メ　　モ

メ　　モ

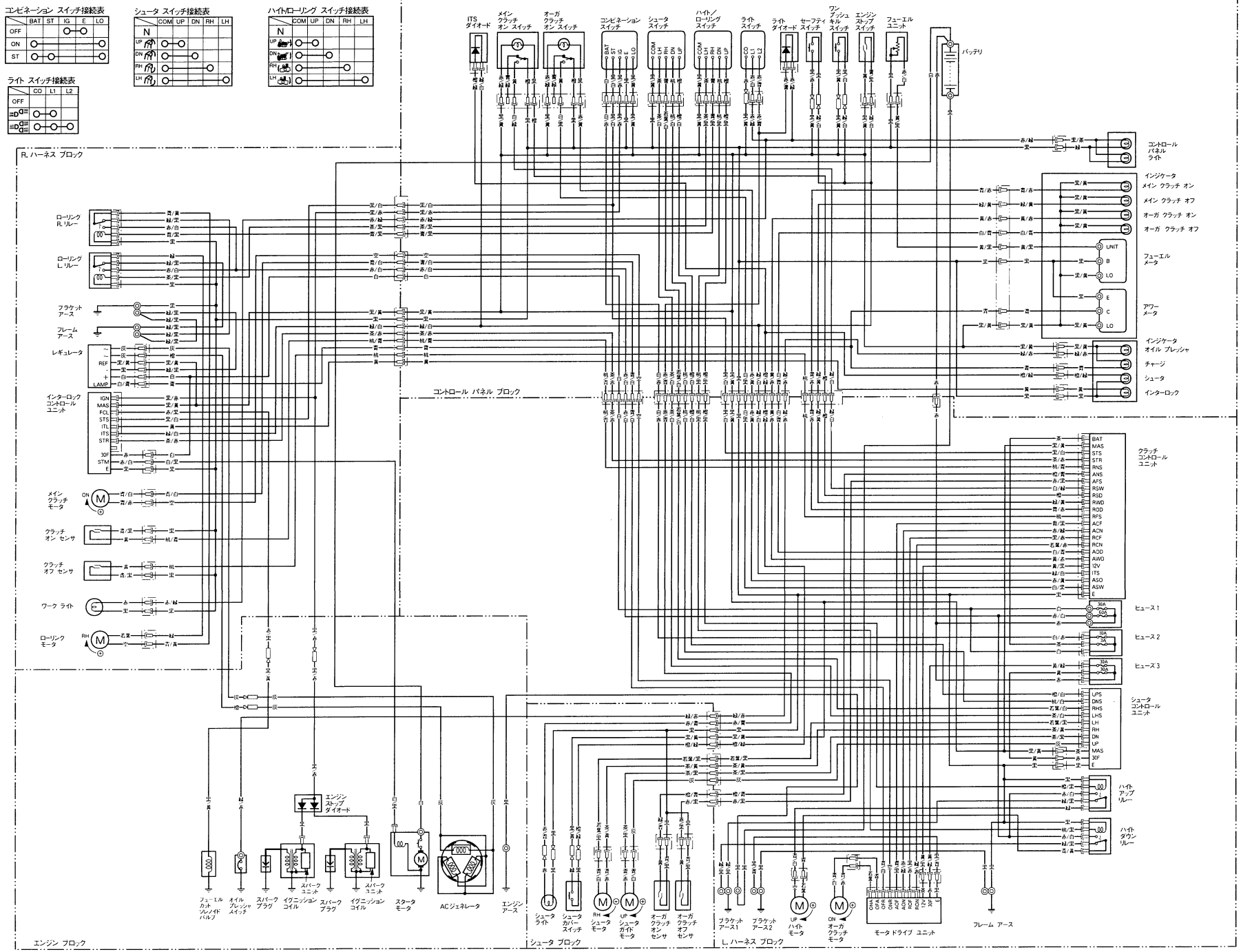
メ　　モ

配 線 図《HS2011Z》

横幅右から270ミリで断



配 線 図《HS2411Z》


コンビネーション スイッチ接続表
BAT ST IG E LO
OFF
ON
ST
シュータ スイッチ接続表
COM UP DN RH LH
N
UP
DN
RH
LH
ハイトローリング スイッチ接続表
COM UP DN RH LH
ライト スイッチ接続表
CO L1 L2
OFF
R. ハーネス ブロック
コントロール パネル ブロック
エンジン ブロック
シュータ ブロック
L. ハーネス ブロック
ITS ダイオード
メイン クラッチ オン スイッチ
オーガ クラッチ オン スイッチ
コンビネーション スイッチ
シュータ スイッチ
ハイト/ ローリング スイッチ
ライト スイッチ
ライト ダイオード
セーフティ スイッチ
ワン プッシュ キル スイッチ
エンジン ストップ スイッチ
フューエル ユニット
バッテリ
コントロール パネル ライト
インジケータ
メイン クラッチ オン
メイン クラッチ オフ
オーガ クラッチ オン
オーガ クラッチ オフ
フューエル メータ
アワー メータ
インジケータ
オイル プレッシャ
チャージ
シュータ
インターロック
ローリング R. リレー
ローリング L. リレー
フラケット アース
フレーム アース
レギュレータ
インターロック コントロール ユニット
メイン クラッチ モータ
クラッチ オン センサ
クラッチ オフ センサ
ワーク ライト
ローリング モータ
クラッチ コントロール ユニット
ヒューズ 1
ヒューズ 2
ヒューズ 3
シュータ コントロール ユニット
ハイト アップ リレー
ハイト ダウン リレー
エンジン ストップ ダイオード
フューエル カット ソレノイド バルブ
オイル プレッシャ スイッチ
スパーク プラグ
イグニッション コイル
スパーク ユニット
スタータ モータ
AC ジェネレータ
エンジン アース
シュータ ライト
シュータ カバー スイッチ
シュータ モータ
シュータ ガイド モータ
オーガ クラッチ オン センサ
オーガ クラッチ オフ センサ
フラケット アース1
フラケット アース2
ハイト モータ
オーガ クラッチ モータ
モータ ドライブ ユニット
フレーム アース

HONDA

本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2－1－1

30V12600
00X30-V12-6000

K1:HS2011Z
Ⓢ
Ⓞ Ⓗ Ⓒ 3009911